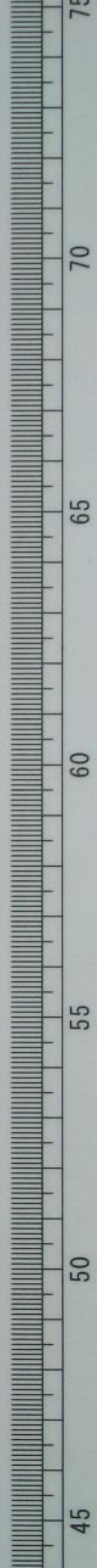


奉朝文鑑

首卷

新
99
1



荆門
號 99
卷 1



荆門

本朝又鑑

本朝文獻





獅子番獲稿



聖本のお文鑑序



蓮二二房

昔よりいふに連龍のふりやうなる文章あれ
連龍といふ文章あり文章をいふといふは
おのれ文章のなほよくある言はれは同くあれ
いふべきありて和漢の文章いふはさうから
いふにその語とまじらふはさうから
さうからいふはさうからいふはさうから
あつたといふはさうからいふはさうから
いふはさうからいふはさうからいふはさうから

本明文鑑首

能諧ふ芭蕉ありては、いふ古人とあらはるゝも、乃て
 んのり、あゝとていふ人も、人の場合、まゝ、自在な、あ
 ら、い、上、と、いふ、人、の、一、ま、か、子、の、ま、と、ま、れ、と、も、は、な、連
 る、い、章、の、字、の、格、と、ま、る、と、い、ふ、つ、つ、と、新、音、の、ま、か、と、ま、れ
 て、深、中、独、衣、の、あ、ら、う、と、は、ま、ま、連、音、と、ま、か、と、い、ふ、格、
 と、い、ふ、つ、つ、と、今、や、能、諧、の、又、法、は、い、へ、い、を、芭、蕉、の、ま、か
 既、り、ち、て、深、中、連、代、の、ま、か、と、ま、ら、い、賦、雅、頌、の、ま、か
 と、ま、か、あ、ら、う、と、和、漢、の、又、法、は、深、情、の、ま、か、と、ま、れ、い、
 あり、ま、い、ら、其、内、の、ま、か、の、ま、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、れ、い、
 の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、れ、い、

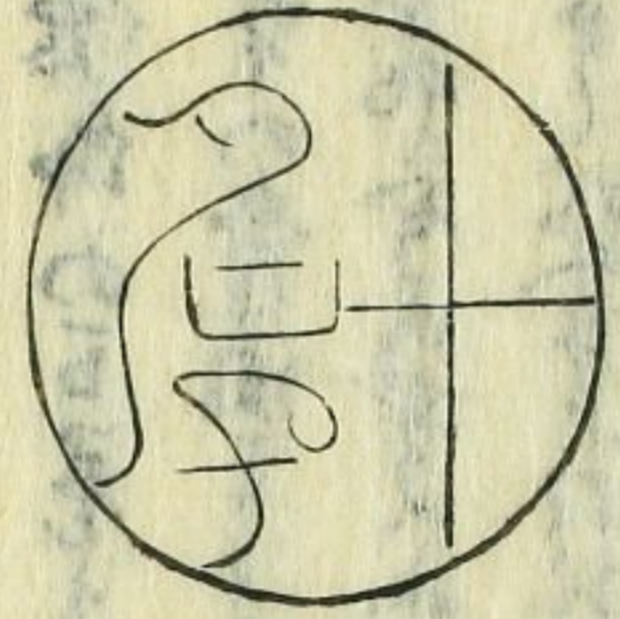
二、東、阿、仲、の、作、意、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、
 つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、
 名、鑑、を、い、つ、つ、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、
 辞、の、類、と、あ、ら、う、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、
 万、世、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、
 か、ら、あ、ら、う、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、
 て、八、代、の、裏、と、あ、ら、う、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、
 い、ま、あ、ら、う、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、
 和、ま、あ、ら、う、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、
 の、ま、あ、ら、う、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、つ、つ、の、ま、か、と、ま、ら、い、

し新文の字は後とてふに也とて今とて七十金とて
えとて我輩の餘力ありとてかく遺誡とてこれ
を多しとのうに蓮二の碑とて机右の壁にかけられ
と燈下の註ありとて本邦文鑑の如きと題あり
転入我邦の奇蹟とありとて次は燈台の如きあり
と今とて海老子の文選ありとて帝王朝臣の如
きとて上高農士の如きありとて瀾王の廟の如
きありとてくくくくくくくくくくくくくくく
又章の中西の事とて賢の如きありとて又田子の
とてやうけ鬼神の如きとて感ありとて海老子の如
きありとてくくくくくくくくくくくくくくく

隅よりしてして五ヶ條の第一とてくくくくくくく
の如して儒師の如きありとて又とてくくくくく
第一とて文章の骨肉とて第一とて五ヶ條の如き
ありとてくくくくくくくくくくくくくくくく
骨肉とてくくくくくくくくくくくくくくくく
第一とて第一の虚言ありとてくくくくくくく
い何とて文章の情ありとて百世の如きありと
とてくくくくくくくくくくくくくくくくく
はくくくくくくくくくくくくくくくくく
とて我輩の如きありとてくくくくくくく

一書の志とてんてん享保の丁酉一二月の功とてん
る也

推干推支是秋日



註^ナの又鑑^ラ序

渡部狂

爰に。我師のつゝあり。此一句ハ発端ニシテ爰ニト
ハ発語ナリ然レハ此序ニ

此詞ラ又下兩所ニ意ヲ令テ凡レ但シ
論語ニ止テ而論ノ辞ナトモ見レシ然レテ

おゝい。此一句ヲ起語トスル可
ハ句讀ノ向トモナリ

あゝくら巧言とてん。此三句ヲ起語トスル可
總テ起結ト句讀トハ同意ニ似テ

サレテ又下兩所ニ意ヲ令テ凡レ但シ
句讀ヲコトハラス去レト句讀ノ向アリ句讀中ノ讀モ亦凡

一レ但シ句讀ハ書ニ
ハ句讀中ノ讀モ亦凡

こゝに年也老也とてん。此三句ハ起語ト結語トナリ
但シ四面ノ林是身ト林是身

ノ元ハ時ナレハ此語成リノ音ニ喩ナリ老ヤシ又下ノ佛語ノ要ヲ知レハ己ラテテ人ヲトカサレリ謂ナリ

万物ノトシテ其減ありテ。四相ハ世ノ要ナリ大ニテ。何

百却入ニテ。おま付を一念ノかゝる。十カラ下ノ句ニ

連続セリ此等ニ句讀角ヲ知レテ其曲ハ此ニ註アリ

此二句ハ讀中ノ讀ナリ而却一年一月一時ト前ニ續キ又ハナリ前

ノ二句ハ又少ニテ後ノ二句ニ其申ラズハ是ヲ錯綜顛倒ノ法トテ

テ大中ヤラカキニセタナリ在テ常トハ四ノ子ノ轉布又ニシテ然ラズ

次ハ起語トハ何レモ句ノ首ニテ或ハ起語ト起語トクキ或ハ起語ト起語

トワケル時ハ後ニテ是ノ向ナレハ同シ也ヤカニ年故ニ上ニ句首ヲ

加ヘ下ニ讀ト加フ是ハ起語者ノ心得ニシテ傳文ノ旨ノ故實トモ云ハシ以下ハ總テ此ニ旨ニ效ラレシ守武宗鑑ナリ

ト行テ。檀林のね。其減。一。ぬ。檀林ノ後ト云

此二句ハ起語ナリ句首ニ讀アルニ似タレトモ春其冬ノ意ナラズニ言セ

テ二句ニ五ノ八意ハ此句ニテ起語ナリ去レハ佛語ノ正風ハ万物ヲウカラ

トユム中ノ意トハ故云羽ニ正風ノ始ニテ世ニヒキタル及在句ナレハ強動也山世

ノ佛語ニ喩フ如来ニテ演説法ニ衆生隨類各得解ストハ天下ノ

凡ノ接々ニテナレラズ一リ岐ノ一子ニハ

向流ノ分ラズテ已ニ要動ノ四ヲ含ヤリ

其トキ所ナレハ句首ニテハ殊ニ大切ノ句讀ナリ

其トキ所ナレハ句首ニテハ殊ニ大切ノ句讀ナリ

其トキ所ナレハ句首ニテハ殊ニ大切ノ句讀ナリ

其トキ所ナレハ句首ニテハ殊ニ大切ノ句讀ナリ

其トキ所ナレハ句首ニテハ殊ニ大切ノ句讀ナリ

其トキ所ナレハ句首ニテハ殊ニ大切ノ句讀ナリ

其所ウ失ハスト詩者
正道ヲ花鳥ニ云リ秋とねまよし藤の又部とくま

てぞ序の末云ふは後もたへぬ。此二句ハ結語ト
モルエトハ明ノ

乙句ヲ起語トシテ連云ノ句ヲ結語ト見レ總テ此句ヲ數田各
互見ノ法ト云ナリ乙句ノ向ニ西季子ヲ云ル故ニ甘美冬ノ二子ヲ數田各

レテ春同秋ノ二子ニ互見セリ或ハ前ノ二句ニ花鳥ヲ對シ是ヲ句對
ノ法ニシテ互對トハ遠イナリ或ハ此二句ハ知花ノ實ト千鳥ノ冬トヲ

雪ノ二子ニ隔々トハ雲玉ニ對テ格トモ云キカ或ハ秋ノ句ト春ノ句ト
知花ヲ隔テ字對スレハ是ヲハ隔對ノ法ト云フ總テハ錯綜トモ見ユ

ト下ニ季子ヲ乙句ニ云フ時ハ互見ノ方ニ定リ又然レハ此四句ニ六種ノ
文法アリテ乙句ヲ起語トシ乙句ヲ結語トスレハ古今ニ珍キ句

法ニシテ多ク又文章ノ鼓舞ト云ナリ去レハ結句ノ遠云トハ故
ノ正同ハ四季子ノ自然ヨリ出テ花鳥ノ情ニ私ナカラシハ風雅之感

傳セ隔レト俊成
ノ高ヲ清テ云ヘリ。是レ何と云ふも二十余ノ句ト。新
奇とあつたひ。奇なり変えられた。此二句ハ起語トシテ
前ノ二句ニ

生レキ全ク句中ノ句ニ平長短ノ句法ノ鑑ト云レハ或ハ新奇
ヲ以テ四体ニ分ケテ二句ニ對シタル正レクハ新奇變ト野ノ四相ナリ

奇ノ多シ上下ノ節アリテ是ヲハ互照ノ法ト
云リ數畧互見ニ似テ少シ遠イタル所アリ。減云レヤ々十年

ふ過ぐる。此二句ハ古今ノ俳論ノ惣結語ナリ但シ二十
余年ノ句ヲ起語トシテ減云十年ノ句ヲ

結語トシレ中間ニ二句ノ短語ヲ用イタル是ヲ
隔句ノ法ト云フニ隔對ノ如ク字ヲ對セサレ也。秋とねまよし

此節の文章ありて。百世の人此後あるらんや。

秋とねまよしとねまよしらんや。此二句ハ句讀中ノ一休ナリ
前ノ二句ハ句中ノ讀ニシテ

後ノ二句ハ讀中ノ讀
ナリ然レハハ返辭ナリ。己名の年と云ふは

此句ハ序者ノ物心結語ナカラ決テ則生後ノ句法アリ矣。己名ノ年トハ
師ヲテ終ニ季子ノ記ヲツクリ東西ニ華ノ号ヲケテクハ濃ノ苦雲山ニ踏カク

セルハ實ニ俳諧ノ要ヲ知テ
獅子庵ノ遺稿ニ此古又ナリ。今や又鑑の時人のたへん。

枕詞の玉と看高し。故宮の瓦とあらん人

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

あし。世二句の起下結。枕下

此句ハ起語ニテ誠ニハ決辭ナリ去ハ決辭ト云フ内ハ上ニテハ詞アリテ下ニ
二句アル内ハ何レ詞ニテモ句互ヲ加フレ但シ百ノ内ニテハ下ニテハ句讀ノ内ハ
ナラズモ言カラスハ此句ハ一應押復用ノ長短トシカス。教皇

光教のふよよい対也。此二句ハ結語ナリ但シ一應押之教ナリ

用ヲ云一リ然レ長短更々ナリ種ヲ對セルハ等ヲナリ對シ得トスレ
むモ杜詩ノ對ナリ能クナリ大ニナリテ教皇光教ハ亦ナリ對セルナリ

ふよよい対也。此二句ハ下ニテナリ。是ヲ句中ノ讀トせん

一レ但シ本朝文粹トハ其ノ等ノ文ニテモ似タリト云フ。假名直名ノ
通用ヲ云レルナリ。表ハ其ノ文ニテハ和漢ノ通用ニテハ此ノ意ニモ

又賦ナリ且外ニ四五等ハ假名直名トニ各テナリ去ハ此ノ意ニテ
ノ假名直名ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ。是ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ

上ノ物語記ナリ去ハ此ノ意ナリ。是ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ

然モ俳諧ナリ。此ノ意ニテハ此ノ意ナリ。是ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ

歌人のふよよい。此句ハ上ニテ起語ニテ下ニ起語

かゝるのふよよい。此二句ハ下ニテ起語ニテ下ニ起語

向中ノ讀ミテ。此ノ意ニテハ此ノ意ナリ。是ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ

ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ。是ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ

前ノ長句ヲ分ケテ短語トナシ。此ノ意ニテハ此ノ意ナリ。是ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ

中ニ長短入レテ。此ノ意ニテハ此ノ意ナリ。是ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ

假名直名トシ。此ノ意ニテハ此ノ意ナリ。是ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ

在ラズトテ一轉シテ。此ノ意ニテハ此ノ意ナリ。是ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ

筆法ニ教ヘテ。此ノ意ニテハ此ノ意ナリ。是ハ其ノ意ニテハ此ノ意ナリ

の風ありし。河の唐人のたゞ真寶あり也。此二句ハ起結ナリ

ラマハ句中ノ讀トモ云ハシ是モ一休ノ格ナリ然レニ古又直寶ハ日本ナクハシ。此二句ハ起結ナリ

二音人連音の風あり。唐人此語の寛法あり。此二句ハ起結ナリ

此故トハ返辭ナリ然レハ音人連音ト云イ詩人此語ト云イ一箇ノ人ナラ上下ニ用ク兩箇ノ師ナラ知書カセタル是ラ分箇ノ法ト云イテ互照ノ法ニ

似テ遠イマリ也。此詞ハ返辭ナリ況ヤモ是ト別ラ味フニレ。此詞ハ返辭ナリ況ヤモ是ト別ラ味フニレ。

くも。又上ノ句ハ起結ニシテ重ク又重クノ人ヲ云ハリ此ハ詩ニ音人連音ハ

故ニ此ヤトハ返辭ヲ置テ塵囂ノ珍客ヲ云ルナリ是モ數名ノ類テ文法自在

下。此と云連音字子後と云ふ。此二句ハ起結ナリ

下ニ段ノ起結語ナリ但レ此二句ノ向ニ何トノ一詞入キニ是ハ中四各ノ

ノ虚寶ナラシ美接ハ起結ノ時ノ役人ニテ或ハ向トモ云ハリ又兼自在

ノ人ノ後ナリ此モ連音モ其後ニ切タタニテたナリノ字者ナレト例ノ虚寶

ニ不自在ニテ誤判ヲ起シテ終ニ誅スル然レハ註者ノ自任モ判辨ノ過當

ヲ西ニシテ美運ヤ知ク思。此詞ハ起結中ノ返辭

と仰。連ニ音と見。又鑑入レ註者

下。此二句ハ起結ナキカラナリ去トモタラシト

ノ起結語ナレハモ讀中ノ讀ナリ然レハ此二句ニ

用ニナリ去トノ前ノ句ニハノテ置テハ上ニク返辭ナリ此等

モ句讀ノ格ナリ總テ自任ノラセテ我ハナサト有尾ノ文法ナリ

此二句ハ起結ナレハ起結ニシテ向ノ讀ノ二句ハ別ニ註セリ去トモ

下。此二句ハ起結ナレハ起結ニシテ向ノ讀ノ二句ハ別ニ註セリ去トモ

下。此二句ハ起結ナレハ起結ニシテ向ノ讀ノ二句ハ別ニ註セリ去トモ

ト打格テ蓄然ノ用ヲ次ニ云テナリ但シナハトハハ起結の註とあり

と云。句讀の点と云く。此二句ハ起語ナリ然レニ此句ヲ

ヲ接ヘタルトナリ云キニ上ニテナリト下ニハナリトナリ手合皮ヲ置スルハ上ノ

ニ可ニテ句讀ナリ此故ニ下ノ句ニモ通用ノハナリトナリ置スルナリ此二句ハ句ニモ句ニハ

知ラハ助語ノ用通用ヲ多ク知リ語路ノ断續ヲ多ク知リ假名直名ノ配

ハ奥ニ教多ク又又ラノ序同ノ向ニ各出シテ一所ニ埒ヲ明ルラ云ハ教之ノ

ニ字ハ凡例ノ筆法ニシテ一部ノ文法句格ヨリ句讀長短ノフ差別ナリ

此序ノ註ニナリ又ハ外題ニモ凡例ノニ字ナリ但シ此註ヲ凡例トナレ

ハ此序ニモ凡例ニハ十四條ノ文法アリナレ條ノ句格アルハ先ハ此序ヲ看ス

或曰漢ニ句讀ノ法ト云フハ語ノ絶ハ又此ヲ讀ト云イ語ノ絶

句ト云イテ讀ヲ先ニ中ニ点シ句ヲ後ニ旁ニ点ス然レハ句讀

ハ二意ニシテ句中ニ讀ヲ分タリト見エ譬之ハ春ハ野山ノ雪消ヘ

テノ鶯ノ声モ和ラカニ。如此兩点シテ是ヲ一句ト云イ此句ヲ

點シテ一五甲ト云リ亦モ此点ハ秘省校書ノ式ニシテ漢文ハ

總テ此法ナリ去レテ倭文ニ考レハ句ハ直地ニ其事ヲ言放シ讀ハ

分明ニ其理ヲ訓解ストリハ句点ヲ先ニ讀点ヲ後ニ句讀

ハ但シ二意ニ云シカ譬之ハ春ハ野山ノ雪消ヘテ。鶯ノ声モ和

カニ。柳ノ色モ濃ヤカナリ。如此二点シテ一句一讀ト云フ時ハ或ハ

ト云イ或ハ句中ノ讀圧云イテ讀点ノ終リヲ一句ト見ルヘシ去ハ漢文ノ讀ト句トヲ合テ一増ノ処ヲ一句ト云ハシモ倭文ノ句ト讀トヲ合セテ一増ノ処ヲ一句ト云シモ總ニ先後ノ違イトシテ讀文ハ讀ヲ先ラ中間ニ点スル中ニ在ル点ハ中絶ノ意ニ其所ヲ句絶トヤ云キテ字書ニ讀字ノ註解ト按書ノ点式トハ取リ違ハルヤ倭文ハ句ヲ先ニ^{カクハラ}當ニ点セハ語ノ絶^ト又^ト知リ讀ヲ後ニ中間ニ点セハ語絶ル^ト知ラン但シ中間ニ点ハ連續シテ高カ点断絶ト云ル^ト或式ノ道理モアル事ニヤ今ハ和漢ノ差別ヲ論スルハ心モ後助ナカラシヤ法ハ知リヤスキ方ニ隨フ^ト但シ此序ニ云ル^ト答諸ノ起語トニ点ハ同ク之方ニ点スヘシ註キ時終レラン

又法

序文 発端 発語 起語 結語
 返辞 决辞 釘辞 歎辞 括辞
 語路 助語 押字 抱字 句頭
 枕詞 句抱子
 句讀 長短 語路 断續

句格

數畧互見 結前生後 鑷綜顛倒
 奪胎換骨 無心所着 上中下畧
 雲土西夏 長短句 懸解 鳥鼠

互照 倒格衣 截頭 截尾 雙文句
 首尾 文對 意對 句對 字對
 隔對 隔句 疊語 疊字 變態
 本注 頓挫 幽玄 隱見

石四十余條アリテ文法トハ一言偏ノ法式ヲ云ク句格トハ句ノ格例ヲ云リ但シ和漢ノ兩用ナリ或ハ本集胎換骨ト古人ノ文章ノ類ヲ借テ意ハ各別ナルヲ云ク或ハ雲玉或ハ雲トハ連續ノ語ヲ分ケテ文ニ換振ラ附ルヲ云フ辟言ハ月花面白ト云フ月ハ面ニ花ハ白ト云ハシカ知レ書経ヨリ出タル文格ナリ或ハ蟋蟀トハ先ニ云キ古又ラ後ニ其名ヲ變ルナリ詩経ノ七月ニ蟋蟀アリ或ハ白鳥ノ類ハ編編ニ物ノ何方モ終ル古又ナリ或ハ雙面ハ一物ヲ以テ上下ノ像アル古ナリ身解ハ字面ノ訓解ニ知レシモ毎字毎字ニ法格アラセテ一字偏ノ下ニ註解アラハ且外ハ其字偏ニ效レシ

題註

歌 水川詩云水云謂之歌也
 詩 詩經序人心之感物而政事之歸也教名詩者之也
 賦 陸機文賦物而瀏亮
 行 詩人玉屑行曲也
 吟 文選註吟痛詠也詩人玉屑
 曲 詩人玉屑行曲也
 引 文選註引大畧如序而續
 謠 詩人玉屑通雅俚俗也
 辭 古又新式空情深而語後

箴 詩經註以箴刺也
 論 文式論曰曲折深遠也
 傳 詩經註傳世或曰記其姓名也
 記 文選註記一々分別記之
 辨 文選註辨如之詞明也
 頌 朱子詩傳頌之詞樂歌
 贊 文選註贊也明也

駱 礼記註曰駱書我之辭曰駱也

表 又送李註表明也禮也如物之標或曰

教令 表也或曰令告戒也亦表也

書狀 約會書也其言如下其意也書

序跋 跋文序東西漢也唐曰次才之語也

對向 詠文對應無方也或曰分寸法度也

日記 詠文日記往復也紀實記同私曰

碑文 詠文碑曰石紀功德也亦曰運載

弔文 文選弔弔哀也弔弔向之也

當用也

昔ヨリ文章ノ題名ハ黒白ニ明ナラス大概ハ似タル物多シ然レハ
和漢ノ文章年序ニ有尾ノ文ヨリ心得ラシカ既ニ文選ニハ
弔屈原ノ文トアルニ右文後佳ホニ賦類ニ入レ滕王閣序
モ或本ニハ記類ニ入レタリ知ラハ漢文ノ字者トテ分明
ナラヌトハ見タリ去レト文鑑ノ論ニ云ハコ出原賦ハ在メテ
弔文ナルク滕王閣序ハ記トモ云ケレト事ニ到リテハ賦ト
ムハシカ爾ニ序ノ字ハ如何ナレ但レ此類ニ序ノ字ヲ用ケハ滕王
閣ニ遊フトル會スルト云レシ是ハ其事ニ詩アルヲ不審ニ序ノ
ヲ置ケルナラン也等ニ選者ハ知ラナリ本ヨリ文章ノ題
名ハ諸抄ニ其註ハ明ナレト一字ノ上ヲ註シテ字面ノ似タル物
ハ分明ナラスハ故ニ其名ノ紛ラシキ合セテ多ニ註解セリ
むモ其題ノ似テ似サル古又ハ字義ト字訓ニ少ナラン總テハ

二十金題ナラシラニニニ七題ヲ挙ケテ不似ト相似トノ差別ヲ
註スルニ漢文ノ筋ハ殊ニ知ラス俚文ハ之ニ分明ナラシカ
或ハ詩ト歌ハ以雅ノ才トスル物ニテ法格ハ本ヨリ厳重ナリ然レハ
文選ナトノ部ニモ歌行曲吟ノ類ヨリ引モ辭モ詩類ノ中ニ
散在セリ何レモ此各ノ詩ヨリ出テ詩ヨリモ亦変化ノ所ヲ知ルレモ
詩歌ノ兩題ハ之ニ細註スルニ及ハス

或ハ歌ト行モ尤ハ相似スル物ト知レシ詩人玉屑モ相兼テ歌行ト云
トアリ去レト氷川詩或ニハ言テ永シ情ヲ放テテナクハ法格ヲ定メス
凡ソレハ或ハ長短ノ句拍子ナラシカ但シ此類ノ中尙ハ石ノ見ナト
云レ短語アリテ樂府ノ常語ナリト註セリ詩ヨリモ法格ヲ定メ
タレハ俚文ニハ体モアラシ本ヨリ和テハ註スルニ及ハス

或ハ賦ト記トモ相似タレト賦ハ當テ前ノ物ヲ各テテ文法ニハ

記ハ往古ノ起リヲ記シテ文法ハ實体ナルレ但シ賦ニ叶韻ノ法モアラシ
或ハ辭ト云フ時ハ詩ト騷トノ声ヲカキテニ俚ニ歌フレトモ漢文
ノ辭ヲ見ルニ何ニテモ其古又ヲ序シ其書ニ辭アリテ必ス叶韻ノ法ヲ
用エ先ハ古人ノ漢文ニ隨フレ去レト書ヲ藉テ論ニヨラス平話ニ辭ト云フ
時ハ俚文ノ体モ有ラシカト錢氏ニハ誠論アリ後ハ俗辭ニ見レシ誠ニ
漢文ハ文字固ニシテ我朝ハ手今度ノ國ナレハ辭トハ助語ノ者又ニシテ唐ヨリ
モ日本ハ詞ノ微情ヲ及セリ然レハ辭ノ体ハ後勤アルキ古又ナラシ但シ
字書ニハ辭トモ辭トモ俗字語ヲノ論アレト文鑑ハ總テ讀マスキニ
隨フ是ヨリ以下ノ子論トモハ一子ニ效レシ
或ハ曲ト云フハ委曲ニ情ヲ尽スレト註シタレト何ノ文ニテカ庶相
ニ百テ委細ニ情ヲ尽スレシキ曲字ノ註ニハ不安ナリ俚ハ俗順
カ曲調モアリテ尤ハ委曲ニ近キ物ナリモモ和テハ國曲ト云フ

ハ曲ヲ附ルト云フニ拍子ヲ拍子ヨリ十二拍子ト定テ向脱ト云フハ拍子
ナレバ漢ニ長短ノ句法ナドモ等ノ唱ニ知ルキカ

或ハ吟ト云フ時ハ物ヲ感スル所ヨリ文字ニ沉思ノ姿アリテ我ト物思
ヲ歎息ノ語ヲ有テハ虫鳥ノ語ニ吟字ヲ用セリ。僕ニ白頭吟モ律ニ
合負吟モ文法ハ但シ歌行ノ類ナラン

或ハ諺トハ世間ノ風俗ヲ示シテ里中ノ語ヲ入レシ或ハ歌子ト書
ナル所ハ歌ハ琴ノ唱ヲナト見レハ等々ノ語モ明ナリ和音ハ各別

或ハ引ト序トハ長短ノ差別ト註シタレト序ト引ハ各別ノ事アリ強
テ序引ノ差別ヲ云ハレ序ハ詩ヲ支ニシテ何ノ詩ヲ序ト云イ

引ハ詩ヲ後ニシテ何ノ引ヲ序ト云レ但シ引字ハ誘引ノ引ノ
義ニテ詩ヲノ余情ヲ誘イ出ス心ナラン既ニ文体明辨ニモ引トハ

君ヨリ以後ノ題各ニテ引ト各ルノ美分明ナラスト幸ハ引類下ニ註ス

或ハ論ト解トハ各別ノ類ナラシテ論スレバ解スル理アリテ尺首ニテ見

レハ其文ハ紛ルナリ去レト論ハ元々テ相對スル物ヲ論シ解ハ文字
一物ノ理ヲ解ス論ハ志ヲ物ヲムツカシウ云イカテ曲折等ニ区ニ

論スレバ解ニテモ其レヲ論スル古ナリ

或ハ説ト辨トハ物ノ理非ヲ一合シテ明辨ニ説ハ其所相似タレト

説ハ虚誑ノ理ヲ以テ人ノ心ヲ感動シ辨ハ實有ノ理ヲ演テ其
古又ラ辨別スレバ説辨ノ二様ハ各別ナリ傳又ニ虚誑ノ取違マリ

或ハ記ト銘トモ相似タレト記ハ其旨又ヲ記シ銘ハ其旨又ヲ銘スト
云レシ況ヤ銘ハ簡約ニシテ文ニ法アリト註シタレハ多クハ言詞アリ

銘アラハ記トハ各別ノ所アリ但シ紀ト記ハ同シ
或ハ傳ト記トモ相似タレト人ノ起リヲ傳ト云イ物ノ起リヲ記ト云イ
此等ノ道理ヲ故實トハ云ナリ或ハ傳類モ傳類ニ入ルレシ

或ハ口ト頌トモ似ヌ所_レト_レ言ハ似テ趣_ハ異ナリ_レ頌ハ口物ノ形_ハ石_ノ頌_ハ紙_ノハ大_ハ口_ヲ替_ハス_ルニ_テ其_ハ通_ハ理_ハナ_ラズ_レ其_ハ寺_モ故_モ口_ト知_ルキ_ナリ_レ但_シ誦_ハ字_モ通_ハ用_ナリ_レ

或ハ尺_ヲ表_ス類_トシ_テ君_父ニ奉_ル尺_ヲ表_ス儀_モ仏_神ニ捧_ル尺_ヲ表_ス儀_ナト_レ總_テ此_レ題_ニ入_ルレ_ル尺_ヲ表_ス儀_ハ上_ニ奉_リ書_儀ハ_下ニ_觸レ_ル或_ハ同_北車_ニ贈_ハ言_ス此_レ題_ハ物_トシ_レ但_シ誦_ハ文_モ所_言類_ノ詞_ナラ_ズニ_ハ

或ハ書_儀狀_ヲ類_ニ申_出ス_ルハ_勿論_シテ_レ移_文悞_狀ト_シ入_ルレ_ル但_シ移_文ト_ハ平_朝ノ_題ナ_リ

或ハ教_令類_ト題_シテ_レ皇_教ノ_類ハ_勿論_ナリ_レ或_ハ寺_社ノ_制札_トシ_テ入_ルレ_ル教_ハ安_堵ノ_教書_ニシ_テ令_ハ王_者ノ_令命_ナリ_レ或_ハ對_向ト_ハ文_章ヲ_モ理_論ヲ_後ニ_ト云_レシ_レ向_者ハ_向ヲ_設ケ_テ對_者ハ_對ヲ_設ケ_テ文_法ニ_鼓舞_ヲス_ルス_ル聲_言ハ_雜陳_ハ理_論ヲ_モシ_レテ

對向の理論ヲ後ニト知ルレ奉朝文類ニ對冉トナリ

或ハ日記類ト題シテ行_儀終_事ノ_記ヲ_入レ_ル或_ハ紀_行ト_云付_ハ日記ノ中ニ入_ルキ_ナリ_レ總_テ記_類ト_ハ各_別ナ_リ

或ハ碑文類ニハ碑_銘墓_誌ト_ナル_レ總_テ此_レ類_ハ序_マリ_テ其_ハ銘_其誌_トアル_レ心_モ墓_誌ノ_論ハ_碑文_類ノ_下ニ_ナリ_レ

或ハ帛文類ニハ帛_文哀_文ト_シ誦_誦文_ヲモ_モ云_レシ_レ但_シ此_レ類_ハ死_朝ノ_衣傳_ヲ演_ヘテ_レ指_シテ_レ法_格ニ_カハ_ラナ_ラズ_レ此_レ碑_文類_トニ_ニテ_レ

或ハ詩ト云イ_テ系_ト云イ_テ冊_ト云イ_テ啓_ト云イ_テ策_向ト_云イ_テ彈_石又_ト云イ_テ皆_以テ_レ係_文ノ_各ヲ_ラス_本ニ_テ係_文ニ_係語_ヲ用_ユル_時モ_文子_ノ各_各ニ_テ

其_ハ鄉_言ニ_心得_ルレ_ル此_レ等_ヲ文_鑑ノ_兼格_トセ_リ況_ヤ系_人ノ_各道_ノ各_ヲ但_シ設_論ハ_對向_ノ類_トカ_ラ論_類ニ_モ接_スレ_ル文_記述_ノ各_雜

實藏ナドトハ増シテ訛諾字ヲ格ナレシ然レニ連珠類ト云アリ併名ハ
題各ノ類ニアラテ文格ノ中ニ入ルキニマ
或ハ文類碑類ナド古文後集ニ題シタト文トハ詩賦ノ惣名ニ
既ニ陸核モ文賦ヲ合テ詩銘說論ハ其中ニ在リ鳥文花文
ナト一字ハレタル題各ハアルシ北山移文ハ檄書ノ類ナレ古戰場
文モ帛文ノ類ナリ去ト文選ノ策文ヲ文類ト題シタル如何ナル故
ニ知ラス或ハ碑類モ如何ナレ碑トハ木石ノ各ナレハ碑銘トハ碑文トナ
有レシト等ニ選者ノ鍊不鍊アレハ多シ古文ノ處也月ヲ云ルナリ誠ニ
古ノ詞ニモ悉ク事ヲ信セストハ錯ヲ以テ錯ヲ看ク故ナレシ

目錄

○第一卷

歌類

- 天文歌 伊弉諾 地理歌 伊弉冊 人和歌 下照姬
- 南朝歌 柿本入麿 連奇 源賴朝 誹諧奇 貫之張
- 求韻奇 高市万呂卿 題志 芭蕉庵 七種奇 東華瑞
- 字訓奇 秋之佐 念佛歌 雲居和尚 長恨歌 返奇 權大夫惟冬

詩類

- 四季花鳥 赤老仙 獅子庵三詠 和漢堂花 古
- 和漢堂月 全 道遙遊 蓮三信 花鳥詩有感 澹都狂

本朝文監首

不覺...

秋思 僧圓知 十月梅二行堂 俄憶從織 宮六之

山中尋酒得已兮 確坊二支 石仙鬼 寄寄戀 石過角

所思 文石 見可戲作各東羽 野象 以北肩

送越友明 渡吾仲 蠅昨裏 管 伊東燕 行路難 信石範

○第二卷

賦類

硯賦 北千子吟 既望賦 宮直庵 涼賦 渡吾仲

將棊賦 東華坊 讀將棊賦 村野航 和山賦 岸昨裏

悠然賦 種乙子 好色賦 魚好法師

行類

水波行 岸昨裏 方歲行 華表人

吟類

兩夜吟 佐亨文

曲類

如曲 作者不知田舎曲 今東曲 生伴坊 舞子曲 東老坊

○第一卷

引類

富士引 山部素人 羊引 東花坊

大明文鑑

謔類

雨乞謔 盤珪和尚

石搗謔 信主仁平

辭類

風俗辭 渡部狂 山姥辭 保和齋

艷詞 第本部 戲師辭 烏丸光廣

懷捨子辭 芭蕉庵

夕暮辭 東花坊

烏追詞 作不知

歲類

由居歲 芭蕉庵

猶戀歲 大已靜

○第四卷

表類

告天湍宮文 御宇因 町起清 遊寺山繁

報恩表

東卷

教令類

雙林寺修石碑教 渡部狂

二洛柿舍制札 白去主小

書狀類

答乙浦冠者狀 保賴朝

法文 蓮聖人 返狀 源中坊

酒成並移文 攝依渡入道

贈丸栗老人書

東坊

二洛書 今川了俊 申白和狀 蓮三房

○第五卷

論類

博以子論 東華坊

博知論 西華坊

解類

念仰解法然上人九品解是併序 長生主解

東老坊

地皇之解 狷左角

傳類

三五后傳 西行法師

藤六后傳 各馬改

白狂傳 東老坊

記類

枕記 俗夏室

白鷗堂記 本林百九

柳子庵記 東華坊

往來松記 江北坊

六名亭記 西華坊

○第七卷

序跋類

其後序 尚書 東山二句序 兼堂 卜后序 白驢居二

觀五百座序 兼花坊 兼合序 蓮三序

千句跋 兼木田守武 帝鴉集序 蓮三序

對向類

花鳥對 東華坊 兼法師對 櫻木因

○第七卷

辯類

居眠辨 趙北枝 桃仁辨 蓮三盾 伯鬼辨 車花坊 自得辨 北七里
梅長者辨 井臺平 巴与 與杖辨 車花坊 招愈辨 桐花角

說類

說上人說 東山長嘯 名小坊主說 應浪化 櫻商人說 木中中
名說 優嘉狂名二子說 木路助 論師說 西花坊
後語說 曹呂利 辻談美說 露五郎兵衛

頌類

暮高孝切頌 二竹堂 右利須磨頌 木林百凡
爾德頌 高九餅 松茸頌 川宣三次

○第八卷

証類

淨土和讚 親善聖人 幸免波平七町 慈具 芭蕉庵
六玉川前贊 僧天仲 六玉川後贊 向去來 我花讚 依兼伍
甚馬帝贊 鉅碧川 貧讚 烏落人 貧讚 讚東華坊
致柱自讚 吾其角 讚徒然讚 江北盾

銘類

花桶銘 雜之甫 櫛小水銘 藤如行 箸柄銘 西華坊
旅硯銘 桐花角 右硯銘 車花坊 盆銘 僧上草

○第九卷

日記類

芭蕉二雨終季記 吾其角

庚午紀行 日四維坊

自造終季記 東華坊

碑文類

芭蕉之羽石碑銘 東華坊

園司墓誌 野船屋寺

弔文類

生身魂奈文 北七里

弔許文 渡部任

提綱

一 呂氏又喜草ヲ見ル法ニモケ條アリ才ニ見ニ主張才ニ見
 規摸才ニ見ニ細司自鍵才四見ニ主意有尾相應
 才五見ニ鋪序次牙才六見ニ抑揚序次取才七見ニ計策
 之句法ト云ハ其ハ此選ノエケ條ニ擬ルニ口弁才一ハ趣意
 ノニシテマクニハ文法句格ナラン然レハ才四ニハ起結ラ云イ才一ニ
 ハ虚實ラムル其余ノニ條ハ二則ラ合セテニ室テニ委短ニ云ル
 ナラン誠ニ虚實ヨリ起結長短ニテノニ條ハ和厚通用ノ文才
 ニシテ假名直名ノ配リハ條又ノ式ト云一リ俳諧ノ業格我乃
 ノ式ト云一レ此故ニ和厚ノ文法ラ合セテ提綱ノ始ニハ云一リ
 此書ノ部ニ歌類ヲ首トスルハ本朝文鑑ト云ルハ大意ニテ詩ハ

其ノリニ對セルヨリ和漢ノ通用ヲ顯セリ然レハ才ニ賦類ハ和漢
ノ文佳ホノ先トスル物ヲ賦ハ文章ノ全態ニシテ其余ハ皮毛骨
或ハ吟行曲引ノ類ハ大ム子詩類ニ加フケハ暫ク賦類ヲ隔ツトイ
トモ本ヨリ詩騷ノ類ト知ルレシ或ハ其後ニ詩類ハ所謂ル詩騷ノ
要ヨリ出テ凡雅ト俗談ト向ナル物トハ又又ニ文鑑ノ一格ヲ云ヒナリ
其類ハ十八題ノ各ヲ交テ大概ハ文選ノ部ニニ效ヘリ
世書ハ古今ノ文佳ホナラフ所諾ノ作者ヲ主トシテ歌人連ニ師ヲ
客タラシム毎ハ篇ニ我々永ノニ子モ世理ニシテ文鑑ノニ子モ世理
アラシカ然レニ我内ノ文章ノ世選ニ數多ナルハ所謂ル世選ニ
奉ルニ題コトニ其レカは格ヲ出シ他ノ文章ノ足ラナル所ハ強テ
數篇ノ各ヲ出セル識ニ難スク誠ニ恐ルレシ増シテ作者ノ尊卑
ヲ分ケサルハ題ノ系ニ次オアレハ居ノ文選モ世故ナシ

本朝ノ文章ニ軍書物語トハ文法句格モ有ナカラ句讀ノ
長短ニカハラス偏ニ其長ノ均ヲ明ル物ナレハ文佳ホノ筆格トハ
違イアリ辭言ハ源氏秘衣トハ曹大家ノ筆法ニモ效イテ
史記漢書ヲ主トナセル物語ト文佳ホハ世選ノ互別ニ知キ
世書ニ源氏枕草子ノ類ヨリ文章ヲ裁入テ私ニ題名ヲ
加ヘタルハ楚辭ノ漁父ト命ヲ採テ辭ノ一字ヲ加ヘタル例ナリ但シ
世選ノ筆格ニ近キ物ヲ選ビテ世文佳ホノ部トナセリ
文章ノ韻ヲ用ル古又ハ才ニ四声七音ヲ知ルレシ四声ハ事上去
入ナリ七音ハ唇舌牙止齒喉ニ事止齒事舌ラ加フ或ハ沈中
四声ノ韻譜ニ事止音者而之者上音者而之者而之者
清而之者入音者直而之者或ハ說文ニ韻ハ和也諧也
聲出ニ爲音成文ニ爲音音實爲韻トモ總テ世選ノ

註ラ各ロテ古ノ音韻ノ差別ハ明ナレト倭國ノ人ノ漢文ニ用ルルハ
字面ノ通理ノミヲ知テ語路ノ音律ニ通セオトハ聲ニ本朝
ニ官三品ノ仲ノ如キ人モ漢文ノ叶韻ハ覚束ナシ去テ漢文ノ
文章ノ韻モ或ハ有リ或ハ有ラスレテ免角ニ漢語ノ音律ニ通セ
テハ漢文ノ沙汰ハ推量ナリ然ルニ本朝ノ和音ノ中ニ或ハ韻字ヲ
用イタルニ倭國ノハカハカハ分明ニレテ今ノ文鑑ニモ叶韻ノ法アリ
云レハ本朝ノ韻法ニ聲ニハ月ト云イ書ト云イテ次ニ面ハキト云イ
悲シキト云フ時ハキノ字ハ同字別吟ニレテ同韻ニ用上キニヤ古音ノ
韻法ニモ此格ノ見エハ漢ニモトモトモハ用ノ類ナシ然ラサレハ
假名ノ叶韻ハイウエラノ五音ナレト秋ノフキトハ唇カテト其等
去レト春ノユキト平假名ニハ唇ケレト秋ノフキトハ唇カテト其等
ハ作者ノ心得ニアルレシ月ト云イ人ト云イハ音書ニモ假名ハ辨

ト或ハタヒト云フツギト假名ニツケテハ用捨モ有ラシカキヨリ假名ノ音
法トテモ四声ト七音ノ通韻ヲ知レハ一韻ナキトモ云テ又韻鏡通明
ノ人ニ尋ヌレト通韻ノ古又ハミクシ難レ或ハ長公師ノ詩モ亦行ノ
類モ換韻ノ体ト云フ時ハ同韻ニ同字ヲ用上レ古人ノ文法ニモ其格
アリ但レ韻ヲ隔ツレシ或ハ首尾ノ韻ト云フ時ハ漢文トハ遠クアリ
聲ニハ二句ニ韻ヲ用イ四句ニ韻ヲ用ニ三句四句ニ情ヲ尽レシカキハ
其間ニ四句モ三句モ韻ヲ用上然レハ中間ノ句ハ云イ捨テレ故テ總テ
此段ハ字不字ノ論ニテラス通不通ノ詮ヲナリ或ハ假名ニ平仄ノ
論ニモ未ク詩類ノ序詞ニ見合ハスレ
文章ニ助語ノ古ハ人向才一ノ要文ニテ漢ニテ亦者也ノ四助アレハ
傳ニテ余ニ遠波ノ四助書アリ然レハ和漢ニモ四助ナリテ貴賤老幼ノ
口ヲモ令テハ傳ニテ余ニ遠波ハ明ナレトモ漢ニテ亦者也ハ明ナラズ

去ハ然ニテ平矣トノ助子ノ音律ニ通セオレ故ナリ此故ニ漢ニテ讀
ム時ハ有ルヨリ孟キヤ讀ヤスレ者ヤ倭文ニ手余岐ナラシハ孩兒ノ
物ニテニ書ナラレ辟言一倭人ノ漢文ヲ各テ助子韻子ヲ用イタルモ
唐人ノ言語ニ通セオレ人ハ如何ニ傳子ノ文者トテモ是ハ決ニテ信
用シカクシ漢ニ盡ル武ヤ助語解アルモ其子ノ訓解ハ明ナレトモ
外ニ向テ用ル時ハ一子モ自己ノ用ニテ又倭ニ傳ニ傳譯哉ヤ用子格
アルモ博ク古人ノ文格ヲ見覺ヘテ其子ノ訓解ハ明ナレトモ外ニ向
テ用ル時ハ一子モ自己ノ用ニテ又然ラハ西書ノ註西書ハ書ノ音律
ニ通シテノ後ナラン此等平矣ノ其外ニテ余自ノ助語ニ通セ又
シテ我朝ノ漢文ハ大キニ覺束ナレ去レト隣ノ音^{カタキ}好トカ和レタル
倭文ハ面白ラス知又漢文ニ骨折ルハ和漢ニ人情ノ常ナカニ漢文ノ
人ニ取レキ良ナリ然ニス我朝ノ文章ニテニヲ^ハ助語ト云^ハフ^ハ

助語ト云イテ一子ヲ讀ム時ハ句ノ變ト云イテ一子ヲ讀フ時ハ合^ハ成^トモ向ノ
手トモ云ヘリ語路ノ断ル時ノ助語ト云ハ誰カ我朝ノ助語ヲ知ラシ
然レハ漢ガノ此等正矣モ本朝ノ手余岐ニカハラオハ漢ニテ通スハ
カ書モ知リ漢ニテ通セカハ大儒モ知ラス知ハスニ抑ヤヤ
去レト漢文モ肩子ハナラ又用アルハ先ハ唐人ニ交リテ唐音ヲ覺ヘ次ニハ
唐人ノ文者ニ逢テ夷洛ニ风格ノ詞ヲ習ヒテ余自ノ助子ヲ知リテ
其後ニ漢文ヲ且キナリ^ハ等ノ語ヲ知ラ又人ノ我ハ漢文ヲ得テ
ト思フハ文章ノ道理ヲ知ラ又方ニ各レ先ハ本朝ノ文ヲ知ルナリ
一文章ニ假名有ス者ノ配トハ才一ハ作者ノ心得ニシテ才ニハ筆者ノ
機轉ナリ去レハ先師ノ文題ニモ五ヶ條ヲ叙スルトテ^ラ野^ノ數ニ
呼^テトハ^ハ野^ノ野^ノフ^キ隱^ナラ^スト^誠ニ^漢文^ハ上^ニ返^リテ^官野^ノ野^ノ
數^ト連^結セ^リ然レハ倭文ノ配トハ官モ野^ノ數^ニ呼^テト^ハト^ムニ

動字ノ入用ヲ知ルレシ譬言ハ用ノ手余波トテモ假名ト貞名トノ間
 三置レシ此故ニ文跡ハ假名ト貞名トノ西用ナリ次ニ筆者様
 トハ譬言ハ月雲面衣トモ花時鳥魚ト有テトモ貞名ノ訓ニ
 續キタルハ但シ筆者ノ不接轉ナリ昔シ故云羽ノ幻住庵ノ記ニ
 云忽ハ三村足東南ニ馳セトアルヲ云思皇ヲ尊足ト合テハナチラ
 ンタルハ才シニハ接者ノ不浮子ト云レシ此等ハ互ケ條ノ皮モト云レト
 倭文ニ云ハハ骨ノ節ナランカ

一陸士衛カ文賦ニ文ハ知ルフノ難キニ非ス文ハ能スルフノ難ト
 然ルヲ我乃ノ誠ニハ世ニ文ニ早ラ書ク人ハ有レト世ニ文ニ早ラ
 知ル人ハ無レト云々此兩義ヲ辨ヤハ知テ能セタル者ハサ
 書テ知ラサル者ハ多カラシ是ヲ提綱ノ上ノ要文ト見レハ
 總テハ文ニ早ノ公論ナルヘシ



本朝文鑑卷一

附序

蓮二房

編輯

渡部和

註解

歌類

天文歌

伴特詔

地理歌

伴紫丹

人和歌

下照姬

南朝歌

連歌

誦詔歌

求韻歌

題名歌

七種歌

字訓歌

念仰歌

長恨歌 返身

詩類

附序

四禾子 蒼鳥

獅子庵之詠

和漢堂見花

和漢堂見月

道遠遊

蒼鳥詩有感

秋思

十月梅

俄情促織

山中尋酒

雄坊工支

寄秀感

所思

見月戲作

野菊

送越丸明

繩

寫

行路難

Handwritten text in vertical columns, likely a list of names or titles in a specific script.

歌類

中宮御所

Handwritten text in vertical columns, likely a list of names or titles in a specific script.

下二事一也
 二事一也
 三事一也
 四事一也
 五事一也
 六事一也
 七事一也
 八事一也
 九事一也
 十事一也
 十一事一也
 十二事一也
 十三事一也
 十四事一也
 十五事一也
 十六事一也
 十七事一也
 十八事一也
 十九事一也
 二十事一也
 二十一事一也
 二十二事一也
 二十三事一也
 二十四事一也
 二十五事一也
 二十六事一也
 二十七事一也
 二十八事一也
 二十九事一也
 三十事一也
 三十一事一也
 三十二事一也
 三十三事一也
 三十四事一也
 三十五事一也
 三十六事一也
 三十七事一也
 三十八事一也
 三十九事一也
 四十事一也
 四十一事一也
 四十二事一也
 四十三事一也
 四十四事一也
 四十五事一也
 四十六事一也
 四十七事一也
 四十八事一也
 四十九事一也
 五十事一也
 五十一事一也
 五十二事一也
 五十三事一也
 五十四事一也
 五十五事一也
 五十六事一也
 五十七事一也
 五十八事一也
 五十九事一也
 六十事一也
 六十一事一也
 六十二事一也
 六十三事一也
 六十四事一也
 六十五事一也
 六十六事一也
 六十七事一也
 六十八事一也
 六十九事一也
 七十事一也
 七十一事一也
 七十二事一也
 七十三事一也
 七十四事一也
 七十五事一也
 七十六事一也
 七十七事一也
 七十八事一也
 七十九事一也
 八十事一也
 八十一事一也
 八十二事一也
 八十三事一也
 八十四事一也
 八十五事一也
 八十六事一也
 八十七事一也
 八十八事一也
 八十九事一也
 九十事一也
 九十一事一也
 九十二事一也
 九十三事一也
 九十四事一也
 九十五事一也
 九十六事一也
 九十七事一也
 九十八事一也
 九十九事一也
 一百事一也

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

二六種ニ分シテ百又ハエアルニキ古又ニテトハ世之内任ノ詞九ノ今ハ
上義ニ中畧ナル故ニ本文ノ續トハナセリ然ルヲ富士ノ烟ト長柄
橋トハ二条ノ長ノ両方ヨリ今古ノ説モ區々ナルヲ言フ
ノ辨明ヲ見レハ辟言ハ古クニ讀メル富士モ長柄ニ世ニ傳ル物
ハ變化スキニ和音ノ意高ク石易ニシテ人ハ心ヲ慰ムキニト
新趣ト古意トノ別ナレハ今ハ其ノ烟モナリ且橋トモ
ト云ニハ何モ烟ヲヨミ橋ヲヨムキトソモモ世ノ西之所ニ
富士ノ烟ニヨリテハ古クニ心ヲ慰ムトモ云イ結語ニ時移リ古又ハ
トハ古キ長ノ依時モ移リナリ富士長柄ノ古モ行去リテ物
ノ變化ハ様々トシテ世ノ文字アリシハト一段ノ首尾ハ明

ナリ然レバ諸抄ノ善説アル富士ニ断不断ノ論モアラズ且長柄ニ
造石造ノ美モアラレト我々ノ秘抄ニハ註タレト但レ和音
ノ古キノ秘授アラシニハ或ハ古今ノ序傳ト云フ物ニ長柄橋モ尽
クナリト内クト讀ヤリテ人ハ古キト下ニ續クニトモ内人ハト
讀下スニカラズ其ハ餘ハ總テ先註ニ隨フニ誠ニ世ノ序ノ称
スル所ハハ流ルニテトハ地波山ニカケテノ君臣父子ノ恩義ヲ
重シスヨリ夫婦朋友ノ仁愛ヲ刀心ニ貴賤老若ノ長ホラ
思ハル本言ノ儒仏ノ專論ニシテ本朝ニ和音ノ其基本ナラカラ
ヤ是ラ信シテ是ラ仰クニ天地モ言ニ震動レ鬼神モ言ニ感
仰セラル實ニハ序者ノ筆カト云ハレ

補古の歌

天文歌

伊弉册

あふりね。むか〜と〜あふり。

地和歌

伊弉册

あふりね。むか〜と〜あふり。

人和歌

下昭姫

あふりね。むか〜と〜あふり。
あふりね。むか〜と〜あふり。
あふりね。むか〜と〜あふり。
あふりね。むか〜と〜あふり。

狂云此の歌は古今序の類ニシテ天地ノ始ニ歌アリト云ハ
ヨリ古注ニモ此詞ヲ出セリ但し古注ハ貫之ノ自作トソ
去レハニ神ノ詞ヲ以テ和歌ノ始ト云ル者ハ毛詩ニ古詩成文
ノ謂ニシテ況ヤ此詞ノ之五七言ナルヤ殊ニ一五言ノ句
ニテ伊弉之知ノ韻ニ叶イタル神通不測ノ和歌ニ誠ニ
奉朝ノ文鑑ト知ルレ然ルニ神ノ傳ニイハ文字ニ配シテハ
コトニホ子一リトカ此等ハ神ノ秘訣ナラニ詮テ註志ハ恐
アラシクハ百羅山ノ折衷抄ニ反カニ其旨ヲ出セルカ云ニ神ノ
詞ニハ神書ノ讀ニカモ區々ナレハ今ハ古今集ヲ類ニ陸ウ昔ハ
漢祖ノ大風歌ニ短語ニシテ正路ナルヨリ唐ニモ歌類ノ其

本朝文鑑一

本ト註之リ増シテ二神ノ世詞ノ短篇ニテ正通ナルヤ世
ニ天文地理ノ兩儀ヨリ人知ノ世題ニ分シタル聖典ノ云ハ次才
ニシテ世ニテ以テ万物始トハナリ次ニ古今ノ序ノ語モ世ノ
意ノ世傳ニ及ハ下照姫ト事ヤ或鳥ト云レハ八雲ノ所ニ居ルハ
殊ニ人知ノ始ナル世ニ善ク知レル所ナレハ今ハ世姫ノ事ヲ以テ人知
ノ始トハセリケリ然ルニ世ノ事ヲ註シテ諸所ニ據クノ説ヲ
ト世等ハ上古ノ事ナレハ世ノ心モワキカメシト既ニ世之モ云レハ
分明ナラヌヲ神秘トスレ或ハ情輔力奥儀抄ニ世ノ事ニ韻子
ヲ用ケタルカ彼ト世トハ文句ノ遠クアリ教子ノ世ノ求韻下ニ
見レシ但シ世類ノ標題ニ補フ三歌トハ文世ノ詩類ノ始ト

モ補フ詩トアリニ效ハ八雲ニ三章之句ナルモ世ニ三章トセ句ノ
神代ハ古ノ文字モ定ラ子ハ世故ニ之看ト云ハスレテノ歌トハ云レ
ナリ去ルハ古代ノ詞ヲ補ヒテ今世ノ事ヲ照ラヌト云キ文選
ニ題註ノ意ナラシ總テ日本記ノ趣ナカラ神代ノ秘説ヲ加フ

南朝ノ事

柿本人麿

やとてあや神おむるのまきくささあささくさく。因
々々もはよあれもみ川の流よまららし流くさくと
うらみの國のむらさき秋津のゆめいよ宮くさく
ぬくさささささささささささささささささささささ

川をたぬるさあひタ川をくせ川のきゆるく
此山のやきくあり玉の川のくやこもく
あふも

征云云云ハ万葉集ニ在リテ吉野宮ノ祝詞ナレモ君臣
ノ和合ヲ讀メリタル始ニ天文地理ヨリ次ニ人知ノ世情アス
多ニ君臣ノ合體ラズキトナリ去レハ世ノ全ク御ノ先ニ君臣
ノ時ヲ終レ後ハ宮造リノ祝詞ナカウ心ヲ吉野ノ衆ニ宣ハセ
テ其川ノ流ノ絶ヘサランニ去遠ク一万年ノ望化ヲ仰ヘテ長ク
百世ノ風雅ヲ傳ヘキトソ但シ世ノ才四向ニ語路ヲ極メテ
調ケレハ子思ヘテ見レキニヤト感物ニ世ヲ論シ

連歌

源頼朝

さふめいららこはくくくくくく
むくくくくくくくくくく

ね云云連歌ハカサト云フ難哉音レ頼朝ノ上洛ノ時ニ近江ノ
守山ヲ過玉フニ香履^{イナゲ}盆子成血ナラ見テ連歌セキヤト案ニ
玉心ヲ平時政ハ取アス云前句ヲ申上タントフ

詠話

貫之娘

そのしらけくくくくくくくくくく

小端やろくもくやうい

仁云世よりハ貫之カ娘ノ九歳ニテ護スル俊頼朝臣ハ世
吟レテ瀝ラ落レ給ヘリトテ誠ニ幼女ノ本情ヨリ出テ幼者
ノ名ヲ加ヘル所トシ然ルヲ敬頼ノ才ニ置ルハ古代ノ
モ教多シカラシメ貫之ノ序アルヨリ彼カ娘ノ名ヲ出シテ
先ハ其父ノ名並ニ冠ラシメテ次ニ位階ノ累トラスナリ然ラハ
世等ノ次才ヲ見テ選者ニテ私ナク都立ノ先後ハ
ニ據ヘ知レシメトテ誦諸ト佛諸トノ子論ハ清輔カ初ト
ニモ誦ニハ佛子ヲ用ヘシ古今指遺トトハむ不審ナリト云
芭蕉内ノ化五ヶ條ニ師資傳印ノ口訣アレト今ハ古今集

ノ故書ニ住ミテ誦諸ノ子ヲ用イテ先ハ文鑑ノ公道
次ニ選者ノ殊勝ト云ヘシ但シ誦諸ノ子ノ凡躰ハ八雲所
ニモ論アリテ季久ハ誦諸ノ六一種ニハ所ナリ

求韻ノ子

高市萬呂婦

あささいしんてゆあなま

狂云此子ハ清輔カ眞孫抄ニ出シテ求韻ノ子ニ四角
去レト雜韻ノ体トテ五別マハ分明ナラズ但シ通韻ノ様ヲ
見ルナリ或ハ長音ノ類トテ下照一姓ノ子アレト是モ極韻

一似テ同字ヲ用ユルニ其意ハ甚ク人總テ此等ノ難後ニカキマ
其書其人ヲ論ヒヨリ角已ニ去ラ附キナリ但し本朝ニ於
テノ沙汰ハ詩類ノ下ニ着合スル

題名

芭蕉庵

あこはことぬとくくうてやわく
うね人よりもあられうりもあ
ね云世号ハ祖父師ノ俳諧ニテ世類モ教多ク中ニ多クニ
号ヲ選ビ一先ハ先ニ或人ノ撰集ニ世号ヲ山山ストテ
買人ヨリモ哀シキリト書撰シタハ故云羽ノ鬼モ

ニ書ユラシ今ハ買人ヨリモト改出セルリ誠ニ物ヲ買人ノ
賣人ヨリモ劣タラハ細雑魚ニ於テノ專用ナラン如何ニヤ
彼集ノ選者ノ廉骨ナル去リマ故云羽ノ俳諧ノ号ハ此外モ
アミタ有ナカラハ凡躰ニハ必ル所アレハ今ハ之前号ノ誤ヲ改シ
ノミタニ世一着ラ出セルナラン

七種ノ号

五七言

東華坊

おりらや柳七種ありくは。天の思戸のあらのみ
とらむのゆふのさかきとらんやうり
りゆきとてあやうりくまのゆふのあやうり

新國の仰のたしこふあつた形のみよふまゝとたや
言ふもれし世ももろく流濁のあふる。ののの
やちかふもさふゆひのさむやうもさふらと
るよとわらうまふれたさふ若荷もあふらり。し
こしつては果もさふあつたのやもろくさふらと
てふまのちあつたさふらとさふらと。さふら
えあれは八種入る石種もあつたさふらとさふら
しつたさふらとさふらとさふらとさふらとさふら
とさふらとさふらとさふらとさふらとさふらと
さふらとさふらとさふらとさふらとさふらと

任云以我ハ全七章ニシテ其間ニ長短ノ格アリ世格ハ五箇分
カテモ多トト墨山ト葛蒲歌ニ效ヘリ總テ六五十八句ニテ
毎ニ二句極約ナル例ニ青尾ノ約ヲ用エ去ハ先師ノ假名約府
ニ奇偶ノ教ヲ調ヘル故ナリト。傳 然レハ世々モ西ニ所ノ詞
アリ面白ヤハ神多ノ発語ナルク武士ハ弓矢ノ縁語ニシテ
午早振ハ神國ノ花詞ナル例ニ樂府ノ云イ格ナリ
去レハ世々ニ七種ノ名ヲクニ始ハ世々七種ト云テ世々世々ノ
六種ノ世々ニ鷄毛菜ハ七種ノ物名ニ編言キテ先ハ世々ノ
流濁トハ云レリ或ハ面白ノ神多ヨリ鈴ト云テ子ヲ編言セテ山石
戸ノ囀ハ句顛ナラ流濁ノ時ニ或ラモ云レリ或ハ日本ニ意

上侍朝ニ両部ノ神通ヲ云イテ仰ノ子ヲ寄セタルカ一草木モ
 我國ト恙皆成仏ノ語ヲ用イ何レカ思フト讀メルコトヲ言
 ム是ヲ夕角ノ法ナカラ和漢ニ筆格自在ト云ハ御形ノ錦
 トハ其花ノ紅ナルヲ括シテ錦ヲ敷嶋ト云イカケタル實モ世名
 ノ子ニハ漏レニ賣テハ法佛ノ教ナラト我名ノ不幸ヲ歎キ
 タルナリ或ハナ繁縷ノ名ニ便リテコトヲ長ニ割ラハ柄ト云ハ
 太平ノ林ナカラコトニ結ト云フ御音ヲ取リ然ルニ路トハ各荷
 トハ琴ノ子ノ唱テテト富貴實加ノ名アラコトハ太平ノ
 科ノ晴レルヲ云イむモ起語ノ何々コトヨリ兩所ニ教ナラ結語
 シテ單ニ單ノ名ヲ置タル筆端ノ敷舞ヲ見ルキナリ但

武士ノ詞ヲ置タルハ本朝ニ今曲ノ教イアリテ先ハ謡物
 ナカラ始ニ八王ノ家ノ子傳教ヲ云イ次ニ武内ノ護衛ヲ云ル
 今又ニ又五軍ノ軍實ヲモ知ルハ或ハ片ニ陸奥トハ遠國邊
 出ノ夏ニ寄セテ軍シラ又東夷ニテモ譯ラ重シ奉平ヲ云ハ
 リ但シ之安達ハ片ノ各所ナカラ彼里塚ニ鬼アリ氏君カ馬
 ニト云ハ心ナリ技木佳ホニ救念ノ子アリ然ルヲ君母米ノ子ニ
 云イカハ仁和ノ希ノ雪ヲ云ハ雪ニハ花ノ子ノ移リヨリ花ノ子
 ニハ前章ヲ結シ鳥ノ子ニハ後章ヲ起ス是ヲ結前生後ノ
 法ニシテ兩句ノ拍子ノ同キ所ニテ七種ノ各ヲ結語セリ或ハ穂ニ
 ハ石トハ農臣ノ諷ニハ穂ニハ石穂ニ穂カサイト田植諷ノ

徳字ヨリオトクトハ七種ノ雜ナリ然レハ法術ノ精素モ信御
ノ此様ニ過サラント君ノ所見素ヲ云イテラ天ノ羽衣ノ音ヲ
借テ来ニ鴛鴦ノ御音ナラズ或ハ千早振ノ詞ハ神ト云子ノ枕
ナレラ神國ノ日本ト云イカキタル等ヲ解詁ノ字格ト称スレ
然レハ日本ト唐玉ノ句ラ一振子ニ布タルハ号融本子白カニ云レ
アリテ例ニ妻妾ノ格ト知レ結句ハ和漢ノ二鳥ヨリクニ詩号
ノ情ヲ合セテ思ハカキノ凡モ静カニ藤忠カ詩ノ波モ治リ
テ流竹下歳ノ号行ナレシ

字訓ノ号

秋之坊

モリレハ心ナリトとみレドおくらあ
人々ニシ

任飛子ハ炭子ヲ讀テ身書ニ誼語ト云ト今ハ韻子
ヲ用ルヨリ本朝文粹ノ題ニ效テ子訓ニ用テ去レハ
炭子ヲ造ラシ山徒「ハ字書ノ常ナラ火ナリ人ノ物ナ
クハ字訓作ノ身絶ナラシモ寒ケハ炭ニシテ讀テ金城
ノ百子ト云リト但シ法術ノ實験外ニ道ヲ法花一葉ノ道心
ナリ

念伴ノ号

書居和尙

おくらあ
おくらあ
おくらあ

のしほしほく
くもくく十 縮しまのなるて 庵らの
おもわれたいさ

狂云此寺ハ雲居言仏トテ尼入道ノ明暮ニ鳴テ一青角ニ
ニ子ヲ称ス惣テ一万余有アリトテ然レ共知尚ハ眞ノ松嶋
ニ住シ愚堂大愚ト名ラ希テ彼ハ釋ノ活計ヲ示サレ
此ハ種家ノ念仏ヲ勤ムル中此ノ各僧ナリ故ニ殆ノ寺
聖主来迎ノ雲色ヲ松嶋ノ海ノ夕日ニ攤ヘ次ニ廬山ノ昔
トハ蓮社ニ僧侶ノ交リヲ羨シテ俊成ノ寺ノ教シテ
モ思ハレ誠ニ殊勝ヲ仰クク誠ニ以雅ヲ感スレ

長恨歌返寄

民和権太文惟久

いー唐之ノ帝らうて 色とろふらんきしきも
さうやあふた眉よそれ 作の人とのしつらにめ
月も驪山の湯あてさるい 化を卷るれおといよゆあ
いと端棲よぬあふりい 夏草の氷とあふまのた
月にもあふさるうらあて 春のゆふのさあさるい
あとうらあふらさるい みたさうおれおとかわれ
はを秋ぬのあふらあて 月さるすれかわれとま
たや瞳のあふらあて きたかからはわとさあて

いづゝ言敷もさしめぬ世の 業のあらうとさくらね徳なり。
八重の汐波のさしめぬ世の 業のあらうとさくらね徳なり。
たよりありし世のさしめぬ世の 業のあらうとさくらね徳なり。
さしめぬ世のさしめぬ世の 業のあらうとさくらね徳なり。
いづゝ言敷もさしめぬ世の 業のあらうとさくらね徳なり。
もも又月のたよりさしめぬ世の 業のあらうとさくらね徳なり。
たよりありし世のさしめぬ世の 業のあらうとさくらね徳なり。
いづゝ言敷もさしめぬ世の 業のあらうとさくらね徳なり。
たよりありし世のさしめぬ世の 業のあらうとさくらね徳なり。
いづゝ言敷もさしめぬ世の 業のあらうとさくらね徳なり。
たよりありし世のさしめぬ世の 業のあらうとさくらね徳なり。

狂云世奇ハ四句ニ韻ニシテ例ニ梅韻ノ格ナリ全三冊ハ八章ニシテ幸毎
四句アリ去ルハ樂天カ長恨章ニ對シテ倭國ヨリ返来ナリ

然レハ世ニ傳フ唐ノ楊貴妃ハ執事ノ神ノ化相シテ今モ其ノ所ニ
置カレト云ハ一其故ハ唐代ノ太キナニ附テ日本ヲモ取レキ心
已ハ念竊ニ神ノ計ヲ以テ唐帝ニ世ノ事ヲ知ラシメ結ハトソ或ハ
四羅浮子ノ神社考ニモ宇宮瀨川ノ東曲ラリキ揚什伍ノ詞ヲ
奉ケテ世教ヲ出セルナリ
去レハ世奇ノ船ニ全ク長恨章ノ歌ヲ入ケテ二冊ニ心ヲ入レモト
後ニハ見ルニアラスト云ハモトノ二韻ハ其ツ合ナリ或ハ抑ノ肩ト云
ハハ手天カ詞ヲ借テカラシメ三楊家ノ揚子ヲ云テ其母ノ揚下ニ
妊メル妙ナラシク唱テ置ルノ事ヲ添テ 蚕子ノ肩ニ取成セル是ラ
双關ノ文法ト見ルニ直ニ後ハ一篇ノ對テ設ケテ其時ノ時ヲ

云イ専人稀泳ラズル化鳥譽ハニノ傷ニ入カフ時モ難ヤル故
客ニノ霜ラニ耐フハ古キノ詞ナリ但し驪六十月ニ行幸アリテ羽
年ノ春還リ玉ハ化鳥譽ノ霜ハ其比ナルシ或ハ端棹ハ端正棹ニ
シテ華清宮ノ中ニ在リテ書妃カ化粧ノ部屋ナリト云クカクテ
將衣ヒ出タラシニ其又客ノ水ヲ離ルニ似ナランヤ然モタテ暮暝明
ノ對ハ約ヲ用ニ奇法ニメトニ次句ノ月ヨラ起セリ但し月花ノ
一字ヲ云ル其地ニ其ノ風情ナラシ其次ハ手天カ春宵ヨリ徒ト
云フ子ニ唐詩解ノ識ラ借テ四時ノ花本有ラズイナトフ羅羅綺ニ
注スハ長恨傳ノ詞ナリ但し其ハ張ト云錦ニハ夜ト云ル其ニ
和漢ノ鎖辭ト云ル其次ハ一向始終シテ何レカ秋ニト讀ル

花ニ成ノ無常ラズク月ニ雲ノ變化ラズル星シテ馬山鬼ノ書
ト消テ長恨ノ絶ル期モナレト云ルハ春宵ノ事ト云ル其後
ノ對ラ置テ再カ秋ノ事ヲ云テ四序ニ轉變ノ終リト云ルモ
銷線ノ法ナカラハ其ノ次オノ自由見ルシ其次モ長恨ノ教ナリ
ハ二重ニト重ト云クカケテ何カカラス海上ニ玉棹金鼓ノ有様
ヲ云リ然ルラ敷守ト守子ラズルハ一向ノ名又人ノ様ニシテ
線ヲハ彼ノ縵縵ラズリ其次ハ世ニ傳フ其地ハ日本ノ熱田
ニテ光在トハ彼ノ珍瓊ラズクニ其ハ熱子ノ縁語ナリ但し
化粧ハ化粧ナカラズハヒト讀ムヤ然レハ其ク人ノ容色ヲ
思フニ愛モト一向ノ類ヒナラズハ其ノ余ニ喻ル物ナレト云ク

本用天鑑一

例ニホモリ和歌花一枝ヲ言ヌリ其次モ長恨ノ歌ナラカレハ
 オレモト云イカケテ文月ノ便ト傳文ニ結ビタル和漢ニ通用ノ
 法ナラサレニ一草ノ年命波ラ味フ_レ且_レ其_レ言ハモ結キ草止_レ類ニ
 唐辛ノ好色ヲ諫ルニ似テ實ハ神國ノ多可特ヲ各_レ一ニイ
 ノ趣意モ世所_ニシテ又草ノ屈直モ世所_ニ止_レ此故_ニ四_モ方ノ
 國ト云フヨリヨモキ達カ嶋ト詔路ヲ御意セタル和漢ノ文法ニ子
 ノ私ナク世等ヲ_ニ類ノ文鑑ニシテ四海ニ平_ニ匠_{ナリ}云_レ
 但レ世作者ハ好直ノ社司ニテ其身ノ趣向ヲ思ヘ奇セシ先師ハ
 其人ノ位器ニ代_レリテ斯文ヲ作シ由_レ獅子庵ノ遺稿ニハ
 存置_レシカ思フニ其_レ人ハ伊勢ノ神官ナル_レヤ

和類

和歌詠詩序

渡部狂

先師が川て武江の芭蕉庵ありてなほと
 白氏文集とん_ク和漢の流_クを流_クと流_クとれ_ル
 乃_モ和漢との流_クとん_クに_レ大しむぬ_レ又_モ七_ノ言_ハ
 詩詠_ノ之_レ口_ノ互の詠路あり_テり_レけ_レつ_レて_レ互_ノ言_ハ
 七言あり_レわ_レや_レと_レか_レ澤_カ喜_カ通_スる_レなり_ク
 その詩の拍子にち_レり_レか_レき_レわ_レく_レ又_モ大和歌
 の五七詠あり_レり_レん_レれ_レ又_モの_レあり_レ也

海よむおのち拍よむおのちの五七詠かたうわと
 世の凡俗謠も躍々説もさして又七の句拍子せ
 非ふおの伊呂波とて七々五のよふおん
 中してたまふおのたのたあまう一筆の言假傳
 の趣よりい五七の諸路とて阿加薩多此
 約と用ゆまういこわくの式用よりおの
 假名の詩とけりて又七七言の法格あしや
 とぬおのまよりふさくおのよまられ
 おの五七言い真名字れおの拍子あしけおの假名
 の二言一言あしけ物の情とけりかたうわ

十言よと合とて七言とていふ言の十言あし
 とおまへし五言あしけりおの假名の通用一
 おのよと一言あしけり七言あしけり一
 言よりけり七言の中より七言あしけり
 おのよと一言の伸る拍子あしけりおの
 言あしけりといひて詞けりひの優美あしけり詩經
 の句雖の一言七言句あしけり七言と一
 言の言の
 七言と一物より七言の拍子あしけり
 中句
 七言と一息とて七言よ句讀の法とて一
 七言の七言とて七言の五言とて七言の七言と

或ハ五九とハ一ハ七とハ四六とハ其句ハ
 抑子とハ一ハ或ハ假名の韵法ハ漢字ハ上ハ
 下ハ字と用い候字ハ返ハ返ハハハハハハ
 字ハ諸の字と用いてとハ和漢の言ハハハ
 一ハ一ハ一ハ一ハ遠波の字のハハハハハ
 ともハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 或ハ漢字の平仄ハハハハハハハハハハハハ
 是ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 ともハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 五ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 五ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

漢の一字ハ後ハハハハハハハハハハハハハハハ
 外ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 一ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 一ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 一ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 一ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 一ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 一ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 一ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 一ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

とふ時、字面の長短及び論のあはれは、
流の序も詩の序も、の体ありて、
一首ありて、あはれ詩の序也、
とらりて、あはれ詩の序也、
約字ありし、約字ありし、
見合さる、たれ、申に、
千重、万態、
とらりて、あはれ詩の序也、
奇人の家、
とらりて、あはれ詩の序也、

既とらりて、あはれ詩の序也、
花も、
とらりて、あはれ詩の序也、
い、
口、
製作の、
近く、
と、
子、
い、

狂云世ニ假名ノ詩ト云フハ是ヲ本朝ノ濫解ニ是ヨリ法格ヲ定
ムル故ニ先ハ詩類ノ題下ニ付テ序ヲ置テ二則ニ歌類ノ序
アハニ效ヘリ去ル獅子庵ノ遺稿ナレハ也

或ハ此序ニ白文佳ホトハ首シ白赤天カ我朝ニ来リテ
日本ニハ詩ノナキ夏ヲ嘲リタレハ住吉ノ神ノ歌ヲ以テ
和漢ノ通情ヲ示シ給ヘルカ我朝ハ年々テ一奇ノミヤラン
詩モ此ノ如クト云ハ又ハヤリニ何トナク彼カ文佳ホラ奉テ
詩奇ノ論ニトハ云イ出セリ

或ハ天上ノ詩格トハ南海寄飯傳ノ才口ニ在リテ大子王
呵利ノ自暖詩ニ由染便飯俗離會還服緇如何

雨種夏垂我君嬰兒 其外ハ龍樹馬鳴ナトナ余ニ
ノ詩賦アリシヲ

或ハ詩經ノ之ハ五トハ先ハ其雷ニ章有梅ニ章ナト其
外之ハ五ノ句抑子アリテ之ヲラモ一句ト云イハ子ヲ
一句ト云ヘト二句合セテ一句ノ意ナル物多シ故ニ其
五七ノ語路トハ云ヘリ

或ハ漢音ニ通セストハ唐人ハ文字ヲ音ニ唱ヘ我朝ニハ
文字ヲ訓ニスレハ漢文ニ五七ノ長短アルモ何ノ抑子ナ
知レ又音ナリ如何ニ心得テ日本ノ詩人ハ八千里ノ外
ノ詩ヲ子ナフソト也

或ハ俗謡モ躍口詭モ同シ七々五ノ抑子ナガラ是カラ
見レバ近ハカ見ユルナト此等ハ四之ノ抑子トテ知ユクニハ
之ハ抑子ヨリニ五トモ五ニ用ル也凡雅ト俗談トノ差
別ナトトテ抑子ニモ知ルキヤ辟言ハ平生ノ俗話雜談ニ
モ五七語ノ抑子ヲ知ル人ヲ嘯上テトモ口快者トモ
云ハ増シテ筆ヲトリ緘ニ向イテ我ハ又者ナリナリヤ
或ハニテ子ニアルラモ一言トハ委ウ字ト一言トノ註解
ニメテ子ヲ合セテ七言ト云イテ子ヲ合セテ五言ト
云フキ其ノ所以ノ再叙ナリ辟言ハ九言モ八言モ抑子
ヲ知ラシ人ハ總テ呂律ニ合ハスキラ五七ノ語路ト定ル

抑子ヲ知ラヌ人ノ捉テラシ故ニ和奇ノ字アリテ詩
ヲ證文ニ出セルナリ去レハ詩經ノ卷頭ニ南々スル雉鳩在河
之洲トハ一向ノ意ヲ二句ト云ヘハ本朝ノ詩ニモ二句ヲ一
句ニメテ子ヲ一言ト云キハ十ヤ字ヲ合セテ七言ト
ト根本ノ詩經ヲ鑑ニメテ一字一句ノ私ナキ是ヲ古人ノ
先格ニヨリテ一條ノ法度トハ云フナルハ誠ニ五七ノ抑子
ノ詩身ノ先達モ論セテラシハ又ニ本朝ノ文鑑ノ
面皮トスヘキハ此論ナリ
或ハ約子平仄トト總テ古人ノ法格ヲ破ラヌ辨フ所ノ
異ラシハ増シテ本朝ノ手柄ト云ヒ次ニ律詩ノ法トテ

總テ作者ノ文意ヲ以テ永ク假名ノ詩ノ風体ヲ起サハ
 一人ノ明日ノ師トナリ明レノ詩ハ百世ノ文鑑タラン
 去レハ本朝ノ詩ノ元祖タラシハ先ハ詩ノ概古擬古ヲ
 マシヒテ古詩ノ風体ニ效ヘルヨリ次ニハ和漢ノ通情ヲ
 アラシメテ漢土ノ詩人ニ東坡山谷カ風ヲ慕ヒ本朝ノ文意
 ニハ官家源順ノ名ヲ思ハサランヤ然モ江淹ノ序詞
 ラモ引テカウ古人ノ法格ヲ見合セテトハ和漢ノ通用
 論ニメ一時流行ノ備トモ云フニ但此序ハ先師遺
 稿ナラ暫ク白狂カ名ニ寄セテ後ニ其言ヲ傳レハ
 結語ハ拙ノ一字ヲ以テ序者ノ誠恐誠惶ト見レシ

擬古二詩

口赤子花鳥

五言

本飛江

花

春風吹く花も春と秋と。 花はけいも春のしるし。
 美ら花はけいけいけいけい。 けいけいけいけいけいけい。
 鳥
 交あけく冬はゆい。 ちんちんちんちんちんちん。
 世は河のくはむの。 ちんちんちんちんちんちん。
 ね云花ノ三草ハ名利ノ感ナリ去レハ人向世ニ在リテ

和歌ハ一世ノ凡俗ナルヲ知り各歌ハ千歳ノ君子ナルヲ
見レハ和葉ハ兔毛角モ掃スツキニ各花ハ今惚乱
スト云む落葉ノ口ホナラ合メタル詔意ナラニ分明
ナリ然レハ其ノ葉ヲ和ニ喩ヘ其ノ花ヲ名ニ喩ヘテ葉ニ
ハ酒色ノ两款ナト花ニ喩フルハ的面ナラン或ハ之ノ
句ニ至リテサ化ノ葉ノ二字ヲ重クタル或ハ累詔ノ格
モ似タレト是ハ本注ノ法ニメ古詩ノ体ニハけ格アリ或ハ
君者ノ二字ハ歌行ノ常詔ニソ世向一詩ノ人今指人詞
ナリ或ハ花ニ惚ムトハ江上被花惚ナト杜公ト詩
詞ヨリ靜心ナク花ハ散ラントモ絶ヘテ櫻ノナカリセ

トモ詩奇ノ人情ヲ汲ミテ花ニ和ル歎息ナリ然レハ
標題ニ擬古ニ詩ト云ル前ニ歌類ノ之歌ニ效クテ葉ニ
ニ詩トハ題ナシナリ花モ此詩ハヲコトノ韻ヲ用ユ叶韻ハ
總テ之ニ效フレ但シ花仙ハ先師ノ詩号ナリ
和云鳥ノ一章ハ衣食住ノ感ナリ去ハ人向ノ世ニ在リ
テハ寒暑ノ往來ニ苦ホアリテ富貴貧賤モ其レニ
隨フ者ナリ然ルヲ我身ニ感スレハ衣ハ行先ノ有ルニ
隨ク食ハ行先ノ饗^{モテナシ}ニ任セ住ハ行先ノ留ルニ遊フ者
ト此ニ三苦ホ交ハリテ野山ノ鳥ニモ似ナラヤ然レハ
假リノ世ノ苦ホヲ認テ憂シツラレトハ如何ニ思ハヤ

我ハ往ユキ還ル古學アルト烏ヲ愚ニサノ身ニ喻ヘテ自向
 自答ノ詞ヨリ應無所任ノ心ヲ示レタルナリ増シテ
 知花ニ烏ヲ云ヘル言ノ學ヲ己カ家ニノ例ニ時身ホトキスノ往
 還ル急ナラン本ヨリ先師ノ記モ云ヘル天下ニ幾イイクニ處ノ
 獅子ニ庵アリテト古學ハ飯鹽ノ田地ナリ去レハ花鳥ノ詩
 ノ四未子ヲ云イナカラシマニ知花ノ言ト云イカケタル夏冬
 往還ト云フ詞ノ顯ニ知花ノ言ト云イカケタル夏冬
 トラ離々閑シテ是ラ隱見ノ法ト云フ也此等ハ我朝ノ風流
 ニノ唐國ノ詩人ヲモ欺クキ所ナリ誠ニ三ノ妙ナルヘク
 妙ニノ神助アリト云ハ正ニ本朝ノ詩ノ冠頭タランニ此等

ノ故談ニ此言ノ情ヲ顯テノ家ニ條ノ道ナカラシヤ
 此詩ヲ字ナリシテ遠ク其人ヲ嘲ルヘカク、

獅子庵ノ詠 七言

春老也

松

松のていつれも春のき。 我とひいせかたをわたりん。
 春のつかりも月のてい。 竹のあつねをよこまはれん。

茶

茶をいひくはるもこれい。 茶のいひくはるもこれい。
 茶のいひくはるもこれい。 茶のいひくはるもこれい。

天目茶

二七

望之云ふあは性ふれど。 利体のあかのおきもあしど。
智凡雅の旅ふあはるく。 心のおふふうはんせりた。

和云松之三章ハ明友ノ藝向ヨリ藤真風ハ松ヲ讀テ
松ヲ著ノ友ト云イ一昔子猷カ竹ヲ愛ソ竹ヲ北窓ト云
正和漢ノ風流ヲ取合セテ詩吾ノ通情ヲアラハセリ況ヤ
松竹の名ヲ類シテ松ニ公字ノ所以アルヤ或ハ松ニ吾
トハ和吾ノ詞ノ云イカケニテ松ニ根字ノ鎖辭ナラシ或ハ
雪ノ白ニ月ノ夜トハ松ニ月雪ノ形容ヲ附ケテ字面ハ
四時ヲ含メタリ誠ニ此生ノ友ヲ思ハシ六曉ノ意也

其ラ三遊ノ子ハ在子ロ助骨アリテ逍遥ノ筆カモ
敵ス(ク)凡雅ノ画情ヲ尽セリト云フ(レ)

和云茶ノ三章ハ俳諧ノ趣向ヨリ和漢ノ詩吾ヲ取合
テ楚辭ハタゞくナレハ梅ヲモ志レケン何トテ朝夕ニ歌フ
吾ニ讀レヌハ茶ノ遺恨ナラシ去レト我々ノ俳諧ハ詩
歌ニ肩ヲ双ヘカタク前次豆ノ會ハ吾ヲ後ラント例ニ
虚実ノ文法ヨリ例ニ俳諧ノ筆格ナリ去レハ凡雅ノ上
ノ揖讓ヲ以テノ席茶ノ飽体ヲ見ルキナリ
和云松ノ三章ハ和吾者ノ趣向ヨリ凡雅人ニ敵對セリ
所謂ル法性寺等ハ洛外ノ名物ニソ竹ノ皮ヲ以テ造ル

カタクハ茶人ノ燈次ハ三用ニ付故ニ利体ノ各ヲ借テ
 隱者ノ風流ヲ中ニモ以雅ハ旅行ノ鑄^{カビ}ア歩云ハリ
 花ノ芳野トハ庚午紀行ニ「芳野ニ櫻見セウノ権^本至
 ト云ル先公兩ノ紀句アケテ蕉内ノ人ノ常談ナレハ本朝ノ
 詩ヲ思ヘテ其祖ノ遺詔ヲ傳ヘサランヤ爰ニ付公五
 骨節ト見レシ總テハ俳諧ノ寂賞ヲ云ルニ座^本又ハ法ヲ知
 (キ也)

和漢賞花^ヲ 五言律

花^ハ一^ニも^もあ^らく^く 人^ハあ^らく^くも
 花^ハあ^らく^くも^もあ^らく^く 人^ハあ^らく^くも

花^ハあ^らく^くも^もあ^らく^く 人^ハあ^らく^くも
 花^ハあ^らく^くも^もあ^らく^く 人^ハあ^らく^くも

和漢賞花^ヲ 七言律

花^ハあ^らく^くも^もあ^らく^く 人^ハあ^らく^くも
 花^ハあ^らく^くも^もあ^らく^く 人^ハあ^らく^くも
 花^ハあ^らく^くも^もあ^らく^く 人^ハあ^らく^くも
 花^ハあ^らく^くも^もあ^らく^く 人^ハあ^らく^くも

牡丹ヲ云イ我朝ノハ櫻ヲ云テ其趣ハ異ナシトモ
其意ハ同シキトナリ次ニ後對ノ鼓ニ咲トハ唐玄宗
ノ遊糸ヲ時ナラトモ花ノ咲タルヨシ羯鼓樓ニ明ノ
詩ノ意ヲ借り用イ鐘ニ散ルハ奇ノ詞ナラズモ
和漢ノ情ヲ對シ殊ニ哀ホクニ相ラズル西ノ鳴カ鳥
僧ノ對ト云フモ花毎々ラ尺ハカ所アラシカ或ハ唐
ニ立方野トハ古今佳事ノ俳諧ニ奇ヲ借ワテオニハ和漢ノ
題名ヲ結シオニハ詩奇ノ通情ヲ顯ハス又ニ起結
爲微ヲ味フシ去レハ五言ノ詩ハ本ノ陵ヨリ起リテ本ノ林ナ龍
カ評ニモ云ル此等ノ次オハ選者ノ心得ナカラ本朝ノ詩

ヲ定ムキ作者ノ粉骨ヲ知ルキナリ
和漢ノ詩ハ俳諧ノ体ニ效ヒテ全ク虚誑ヲ尺セリト
云レシ去ルハ和漢ニ月花ヲ賞シテ本朝ニ詩格ヲ定
ムキニオハ我朝ノ和奇ノ風体ニ效イオニハ和漢ニ俳諧
ノ筆格ヲ效フシ彼ニ五言律ト云イ此ニ七言律ト云
レ題ノ次ニハハ調ナリ去レハオニオニ句ハ金源シカ
禁止ノ詞ヲ借りテ安仲磨カ飯與ノ吟ニ寄ス先ハ
我朝ノ詠辭ソト見レシ次ニ前對ハ詩奇ノ詞ヲ
ナラテ微瀾卧王塔トモ未波金不定トモ其ニ
古詩ノ次ヲ字シ月ノ桂ノ實ヤハルスリヲ花ナラス

ハカリニト讀タレ古歌ノ情ヲ合セタリ吹ニ後對ハ子歌
 カ故古更ニ寄セテ雪ニ山陰ノ友ヲ憶フトハ後雪初晴
 月色清明ト云ルハ字ノ意ヲ借リ用ニ然ラハ露モ
 更科ト云ルモ露ヲ晒スト云イカケテ共ニ天ノ皎潔ヲ
 フ雪ト露トニ形容セリ也ヨリ常陸ノ山陰ヲ云ハ
 ヤカケテ訓テ更科ニ對シタル和漢ニ不思議ノ各所
 ナフシカ増シテ友ノ字モ婉ノ字モ和漢ニ月下ノ風情
 ナカラ
 二千里外ノ詩ヲ合メ厨メカキツノ歌ヲ合ハス此等詩
 托物ト魚ノ体ト知ルヘシ然レハ結句ハ一二ノ趣ヲ結ヒ居
 ノ詩人ハ旅霏ノ月ヲ見テ故郷ノ妻ヲ思フ佳レ

秋朝ノ名月ハ辛ト請立三月ヲ詠ノラケル様ノ新也モ
 アラストハ辛ト妹トノ御書ヲ云ル枕等ヲ俳語ノ自在
 ヨリハ無心所着ノ体ナカラ俳諧ノ文法モ多クキルヘリ
 本朝ノ詩格モ多クハ此レ或ハサレトハ任他ニテ在様
 ノ畧語ナレハ是ラモ和漢ノ通詞ナラン或ハ別ニ在様
 後ニ物ヲ思ハスト云ル同字ノ差別モ多クニ效フヘシ

道途遊

五言

五言

あつちのちのちの中
 手傳れハ紙はむれ
 かしこもあれや
 かく獲て風味なり

紀云詩六言ニ裴翠ノ眸ハ掛物ノ翳ナラフ今公道途遊
ノ二字ヲ題シテ凡雅ノ是非ヲ掃却ス右モ且鳥ノ瘦
盡用ナラシメ詩ノ意モ見ワシシ然レハ人向ノ好意ノ中ニ
露レハ我為鳥覺レハ鳥為我ト云ヘル在テ齊物
ノ意ナラフ句法ニ騎鯨ノ自在ヲ見ルレシ或ハ鳥差ハ
世間ノ人ヲ指シ仲家ノ人ノ賤弱ニ往セ儒門ニ相離如何ニ
急ナレハ我世情ノ味ヒ尽キテ凡雅ノ襟袂敷ニ心ナレト也但
鳥差ハ前ノ鳥ヲ望ミテ是ヲ墨字ノ格ト見ルレシ

本飛蒼老仙、花鳥詩有感 之五七言
清和任

しーし。可流あり。その人むあしく。
かゝるも、さるもの。さるもの。これさるもの。
はさるもの。さるもの。さるもの。さるもの。
はさるもの。さるもの。さるもの。さるもの。

紀云詩ハ先師ノ遺思ニ重垂前ノ追憶ナリ去ル季ノ自
ノ五七言ニ效ヘリ李和憶友詩ニ秋風清。秋月明。
落葉重。四散散。寒鴨極。復發。相思相見知。
何。日。此。日。此。夜。難。為。情。ト。リ。然。レ。其。詩。ハ。六。句。ナ。レ。凡
秋。月。ノ。句。ハ。落。葉。ヲ。起。シ。秋。月。ノ。句。ハ。寒。鴨。ヲ。起。シ。テ
其。詩。ハ。六。句。ニ。四。句。ノ。意。ナ。レ。此。詩。ハ。十二。句。ニ。四。句。ノ

意ナラシク然ラハニエオラ一書ト云イテナ子トナヤ子ヲ一白んモ
 兼用ハ多クニ同シカラスニ去ト其詩ハニ々五々七々トナ
 一タニ假名ニシタトナフ付ハ意アリテ詞タラス是ハ
 長短ノ句法ニモ似タレト其ノハ其句ノ置所ヲ定テハ
 別ニ長短ノ詩格ハ有ル此等ノ法格ハ千美一カ別ナラ
 何カハ新朝ノ假名ヲ以テ漢家ノ真名ニカガレヤナリ
 去ハ花鳥ノ二字ニ詩格ヲ起シ今ハ花鳥ノ感ニ詩格ヲ
 結シテ實ニ本オカハエケセテノ韻ヲ用イ倭ニ渡向任
 ハラクスフノ韻ヲ踏ム一字一点ノ私ナラニハ若ヤテ師ノ
 遺命ヲ傳ヘテ世ニ付一格モ有ラニカ也

秋思

僧園

尾上の麻の秋と云れよ 耳はくくふ老のゆゑと
 所らのふれもめいと云い かな ちかしのねまをよまのむらり
 狂云此詩ハ眼前ノ秋情ヨリ我身ノ老ラ感シタル徒悲ナリ
 西子ノ段ニモ世世ノ律モタラ又身モ空ク名残ノ惜キト云ル
 此陰空過ノ嘆息ナリ然レハ我宿ノ紅き草ノ色ヲ春花トモ
 誦ムハ四子ノ風推ラるニホントナリ況ヤ明日ヲ待ナハ
 天ニ何西ニ世変化ラ云イ今此生ノ西者ラズリ或ハ紅き葉ヲ
 化ト云ル杜牧カ山行ノ詩ヲ借テ世ニ一掌ノ情ナリト云リ但レ世老
 ハ濃ノ山野ニシテ轉ノ山下ニ南居ス向雅ニ云肩ノ何ナリ云レ

十月梅

二折堂

此のこゝろに梅の花は
ほつと咲かぬ
一よりの節も
いと

任云此詩の隱見は法に全無梅のうらまへも一六天神所詠
十のうらや此花の梅の夏に腰向の石依の月葉のうらまへに
P軍梅ニ言セテ寺子ニ言テ又ラ勸タル總テ留寺ノ子ヲ称ス

俄憎促織ヲ古詩ニ尋

宮六人

其二

たつと咲かぬ
ほつと咲かぬ
いと

其二

たつと咲かぬ
ほつと咲かぬ
いと

其二

たつと咲かぬ
ほつと咲かぬ
いと

任云此の古詩の体にて何れも促織ヲ起句トナル詩經ニ多ク
此格アリ去レ促織ト云フ虫ノ指レテ情キ古又キニ事ノ名知
暇ム所ハ花モ片輪ニ咲キテ世故ニ其題モ俄憎ト云ハリ
其二ハ詩ノ情ヲ設ケテ古詩ノ長刀ニ思フ知ラセシトハ例ニ凡推ノ

畫實ヲ強クシ其ニハ遠玄ニ氣色ヲ澄シ胸句ニ思堂字ノ格ヲ
用ク驛句ニ思堂語ノ格ヲ用エむモ和ノ漢ナルレ其レハ詩ノ華
ヲ飾リテ花ニ似ト云レヨリ小蝶ノニ字ヲ思ハテ寄セタル況ヤ促織
ノ手利^{テキハ}トカラ蝶^ハ雨ノ模様ニモ方カタルト責テハ彼レニ船^ハリ^ハニ
僧^ニノ字^ニ情^{アリ}アリテ凡雅僧愛ハ世詮ナレ但し作者ハ宮田^ハハ
濃ノ山縣ニ素生ス常ハ菊^ニ在^ル由遊シテ向ラ高卧^即ト稱セリ

山中尋酒

得已^ハハ

門の松よふゆとまらぬれハ 畚^ハぬり^テ了^ルま^ハぬ^ハも^ハ
行^ハれ^ハぬ^ハく^ハ店^ニに^ハ宿^スて^ハ 向^テリ^テ者^ノの^ハな^ハら^ハぬ^ハと

但し詩作者ハ故^リテ羨^ム濃ノ山^ニ里^ヲ廻^リニ山^ノ道^ノ艱^難ハ

臣^ハ家^ノ不^レ自^レ申^ス云^ハナリ^ト去^レハ 畚^ハ掘^リト云^フ夏^ハ擔^テ賣^ルノハ高^ク今
云^ハ其^レ其^レ國^ノノ俗^ヲ談^トリ^テ總^テハ山^ノ家^ノノ形^容ヲ汎^シ思^フ情^ヲス^レセリ
去^レシ但^シ作者^ハ得^ル能^クテ越^ス福^ニ住^ス東^ノ華^ノ市^ノ古^ノ乃^ハ人^ナリ

碓坂^ノ土^ノ丈^ノ 并^ニ序

石^ノ依^ル兔

外^ニ市^中ノ商^人ノハ^ハば^ハと^ハは^ハり^ト市^中此^ノ處^ニ居^ル者
も^ハは^ハれ^ハレ^ハ之^ノ國^ノノ市^ノノ^ハり^テ揚^ルふ^ハ吹^ル義^トな
と^ハは^ハれ^ハと^ハの^ハり^テさ^ハら^ハり^テの^ハり^テと^ハは^ハり^テと^ハは^ハり^テ
向^テ遊^ルノ真^ニ也^ハめ^ハと^ハと^ハ之^ノ市^ノ庵^ノノ隣^ニハ^ハり^テと^ハは^ハり^テ
と^ハり^テと^ハは^ハり^テ向^テと^ハは^ハり^テと^ハは^ハり^テと^ハは^ハり^テと^ハは^ハり^テと^ハは^ハり^テ

所思

文石

しーらぬふかぬいそてあはれ
うらむらむらあのみちとあけり
うらむらぬのあはれうらむら
人のうらむらぬあはれうらむら
但云此詩ハ杜陵カ題ヲ借テ人向是亦ラ嘆息セシニ定ハ重子
カ悲奈クニヨリ前後ハ無心所着ラ世路ノ區々タルヲ云ヘララン
但シ作者ハ甲陽武内トウ過角ノ書傳テ姓氏ヲ録セス

見月戲作

各東村

誰うらむらぬや天体とてあはれ
月のうらむらぬあはれあはれ
うらむらぬのあはれあはれ
うらむらぬの子はあはれあはれ
任云此詩ハ哀部カ月ノ詩ヲ借テ天体トシテ常々見ル

ラモリ或ハ月宮多月都ト云ル詩多ク用ヒ未レリ然レ
モ云フ桂月ノイツカ月宮ノイツニ通イテ今宵ハ月ノ
名ニ逢ヘル八月十五夜ノ月出度サト題ニ戲ノ子ヲ云ルモ
俳諧ノ筆格トムレ但シ作者ハ濃ノ北野ニ任ス各書中ノハナリ

野乘

江北信

秋のうらむらぬあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ
秋のうらむらぬあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ
任云此詩ハ首尾ノ巧ニシテ和漢ニ格ヲ用ヒ未レリ去ル人向ノ
采花ヲ思ハ秋ノ花野ノ色々ナシ中ニ誰モ我ハト思イ奈リ
タララ野ヲ乘ハ花ノ角素ナシ誠ニ風雅ノ精ニシテ作者ノ喩ハ

ハ身上止レ但シ其老ハ濃ハ納ニ産シテ稀ニ葉山ノ葎ニ嘉途ス
或ハ萃ヲ好ミ以雅ニ遊ル熊田氏ノ老設あり

送越花明三五七言

渡吾仲

ニあり一柳のむね此を憂ふあり
いづこ一川の流もはくさね
今もねをけむと山とありと
くと秋の節はくさねとあり

征云此詩ハ子面ノ後ナラハ柳花ト松葉トニ寄セテ夏未行
秋帰ル意ヲ云ルをモ別恨ノ風情ヲ尽セリ但シ花明ハ
我ノ直江津ノ僧ニシテ蕉門ノ風雅ニ遊リトス

鯉

鯉をちりし鯉の心
病をちりし鯉の心
あふ風のきくはらひ
任云此詩ハ歌ムヲ増鍾ヨリをモ和漢ノ情ヲ云スニ所對ハ虚ニ後
對ハ實ナル云々五言律ノ風格ヲ知レシ況ヤ秋風ノ便アラト和音ノ
風情ヲ附セラル宣事特ニ他諸ノ筆格ニ誠ニ假名ノ詩鑑ト云レ

鶯

伊東恕

誰々そととくやアハレん けふあはれんつれあはれん

けしきまわしの里に啼くは 名もくのとれぬるをさむま
 狂言詩ハ言ノ姿情ヲ尽セリト云レ然レ三言ハ雨ヲ言ム鳥ナリ
 和訓モ雨言^{ウケヒス}事乾ト云リトフ世縫ハ古事ノ各所ナカラサモ世縫
 モ言ノ事ナリ但シ作者ハ歌ノ教ヲ任ス伴吹ギノ俳士ナリ

行路難

渡右の靴

年よ改あり園よ新なり 里の光も金もふらりぬ
 秋の松よあふもふれぬ 中々の長者の歸をすや
 人よ改ありとては新なり 入りのやれぬるをさむま
 津のねも腰もきこふれぬ 入りのやれぬるをさむま
 思はふともや死のぬる 花のわりの馬もさむま

ことしは改あり園よ新なり 里の光も金もふらりぬ
 任云詩ナニ句ナニ節ナリ去レ樂夫カ行路難ナリ人向ニ云等致
 フ云ル其ツハ師走ノ故トハ月星ノ光ヲ金ハ又ハ人向ノ路
 美ナニ世ハ世向ノ沙汰ヲ直テ花ニ方限者ノ歸揚ノ向ナリ但
 花元ハ那那ノ栄花ヲ云イテ真野ハ長者ノ通称ナリ其ニ人向
 西桐ヨリ作者モ世年ハ初老ノ自ストリ總ラハ野七里山七里ノ老坂ノ
 草叶ヲ見レシ其ニ人向ノ大夏ニハ其金ノ以テ我ニ時ニ高車馬
 ノカニモ及ス金印ハ第後ノ任モ事ナラズ一余一照ノ信ヲ以テ速ニ性
 スキトナリ去ルハ白コ古易カ君ノニ多ク借テ官経ノ任華ハ云ニキイナリ
 君王ハ福日レテ富貴ノ人ヲ教養シテ事ヲ云ニ事ヲ云ニ事ヲ云ニ誠ニ和漢

ノ法アリテ世等ヲ長篇ノ鑑トスニ但シ作者ハ渡部氏ニ又生師ニ世ノ
稿子ナリ常ハ山ニ世ヲ遊シ建ニ信ト世ニ耘耕セリ

韻 叶

ア	カ	ナ	ハ	マ	ヤ	ラ	ワ
イ	キ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	リ
ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	ム	ユ
エ	ケ	セ	テ	リ	ヘ	メ	エ
ヲ	コ	ソ	ト	ノ	ホ	モ	ヨ
							ロ
							オ

